

令和元年度

土浦市中学生交換交流事業(パロアルト市)実施報告書



主催：土浦市・土浦市国際交流協会

ごあいさつ

私たち平成30年度土浦市中学生交換交流事業派遣生16名は、平成31年3月16日から3月26日までの11日間、姉妹都市であるアメリカ、カリフォルニア州パロアルト市において、とても貴重な、日々の生活での考え方が変わるような素晴らしい経験をさせていただきました。

普段体験することのできない異国の文化や生活を、身をもって体験したことで、多くのことを学ぶことができました。ホームステイという家族から離れて一人でバディの家で生活した経験は、最初はとても心細く、とても不安でした。しかし、仲間の支えや、ホストファミリーの優しさのおかげで乗り越えることができ、大きく成長することができたように思います。また、相手と関わる時に一番使える「言葉」が通じないということに、とても苦労したことを今でもはっきりと思い出せます。英語の勉強の必要性和英語が出来ることで広がる世界の楽しさを知れたことは、大きな収穫でした。これは、実際に体験してきた私たちが、周りの友達に知らせていける大きな土産のような気がしています。バディとの絆を深めていくなかで、少しずつ会話ができるようになり、初めて笑い合えた時の、強い達成感や、何か大きなものを乗り越えられた自分を感じた瞬間の感動を、経験してきた私たちが、これから伝え続けて、土浦市の仲間たちにも味わってほしいと強く思っています。

私たち16名はこの事業で、数えきれないほどの感動をいただきました。この事業に参加できたことを誇りに思い、たくさんの経験をこれからの生活に活かしていきたいです。

最後になりますが、この事業を支えてくださった皆様に派遣生を代表し感謝申し上げます。ありがとうございました。

派遣生代表

土浦第五中学校 久保田 一冨



目次



派遣の部

☆パロアルト市紹介	1
☆派遣者名簿	2
☆研修日程	3
☆現地研修日程	4
☆派遣生レポート		
事前研修 ～ 帰国報告会	5～12
ホストファミリー・ホストダイレポート	13～28
パロアルト派遣を通して感じたこと	29～44
☆研修だより From U. S. A	45～56
☆引率者より	57～59

受入れの部

☆参加者名簿	60～61
☆受入れ日程	62
☆パロアルト市生徒の感想	63～64
☆パロアルト市引率者の感想	65～66
☆受入れを通じて感じたこと(土浦市保護者より)	67～68

付録

☆派遣&受入れ 活動紹介写真	69～81
----------------	-------	-------

派遣の部

姉妹都市 パロアルト市ってどんなところ？



パロアルト市



↑パロアルト市庁舎前にある姉妹都市を示す看板

◆ 位置

パロアルト市は、アメリカ合衆国カリフォルニア州北部サンフランシスコ湾岸地域のサンタクララ郡にある都市です。
(サンフランシスコの南約56 km、車で約50分の距離にあります。)

◆ 面積

約70km² (土浦市のおよそ2分の1)

◆ 人口

約6万7千人

◆ 概要

パロアルト市はシリコンバレー北端部にあり、スタンフォード大学の町と言われております。全米屈指の大学のお膝元であり教育水準のもっとも高い都市と評され、その住みやすさも相まって多くの人々を惹きつけております。大学は数多くの起業家、エンジニアを輩出し、ゆえにパロアルトは多数のハイテク企業が生まれ育っていく地となりました。Apple、Google、Facebook など、世界に名だたる企業がパロアルト市から世界に羽ばたいています。

「パロアルト」とは、スペイン語で“El Palo Alto(背の高い木)”を意味する言葉です。サンフランシスコキート川沿いのアメリカ杉にちなんで名付けられました。

◆ 交流の経緯

平成5(1993)年に旧新治村に進出したパロアルト市に本社のある企業の協力により、同市在住社員の家庭にホームステイする派遣事業を開始しました。ネイバーズアブロード(パロアルト市の国際交流団体)を中心とする多くのボランティアの協力により交換交流を継続しております。

平成21(2009)年4月、両市は姉妹都市の締結をし、土浦市にとって初めての姉妹都市が誕生しました。そして今年、姉妹都市締結10周年を迎えました。

2019年3月土浦市中学生交換交流事業 パロアルト市派遣生・引率一覧

土浦市側		パロアルト市側	
氏名	学校名	氏名	学校名
大西 治嘉	土浦第一中学校	Ezra Furtado Tiwari	J L S 中学校 7年生
藤原 彩羽	土浦第一中学校	Lita Sone	J L S 中学校 8年生
東原 羽杏	土浦第二中学校	Emmy Robinson	J L S 中学校 7年生
市川 瑞規	土浦第二中学校	Karis Lau	J L S 中学校 7年生
武井 柊磨	土浦第三中学校	Yamm Elnkave	J L S 中学校 8年生
山口 心奈	土浦第三中学校	Palina Kuzmina	J L S 中学校 8年生
小澤 翔瑛	土浦第四中学校	Owen Bittinger	Greene 中学校 8年生
田村 美咲	土浦第四中学校	Kaila Ni	Greene 中学校 8年生
久保田 一冴	土浦第五中学校	Nathaniel Donaker	J L S 中学校 7年生
中村 真緒	土浦第五中学校	Jasmine Wang	J L S 中学校 8年生
渡邊 創太	土浦第六中学校	Austin Eng	Greene 中学校 7年生
竹澤 ななみ	土浦第六中学校	Caitlyn Oda	J L S 中学校 8年生
齊藤 優翔	都和中学校	Giordano Rischmoller	J L S 中学校 8年生
内田 歩乃樺	都和中学校	Alexandra Filippova	Greene 中学校 7年生
来栖 智也	新治学園義務教育学校	Franklin Ballantine	Greene 中学校 7年生
青山 朋未	新治学園義務教育学校	Kaylee Wong	J L S 中学校 8年生

引率者一覧

氏名	所属
日沢 邦彦	土浦第三中学校教諭
羽生 和香子	土浦市市民活動課

研修日程

日 程	内 容
平成30年 12月27日(木)	説明会 ・ 事業概要、派遣日程及び準備等について
平成31年 2月 1日(金)	第1回事前研修 ・ 現地での交流内容について ・ 英会話研修 ・ 派遣中の役割分担について
2月14日(木)	第2回事前研修 ・ 英会話研修 ・ プレゼンテーション準備 ・ 答礼パーティー打合せ
3月 1日(金)	第3回事前研修 ・ 旅行者からの渡航に関する説明及び諸事項の確認 ・ プレゼンテーションリハーサル ・ 答礼パーティーリハーサル
3月16日(土)	結団式・出発
3月16日(土) ～26日(火)	現地派遣研修
3月28日(木)	帰国報告会
令和元年 5月14日(火)	第1回受入準備研修会 ・ パロアルト市受入全般について ・ 歓迎会準備
5月31日(金)	第2回受入準備研修会 ・ 諸事項の確認 ・ 歓迎会準備
6月 6日(木) ～16日(日)	パロアルト市中学生等受入

現地研修日程

No.	月日	発着地／滞在地	発着現地 時 間	スケジュール
1	3月	土浦市発 成田空港着 成田空港発	11:30 13:30 16:55	結団式後、バスにて霞浦の湯から成田空港へ 成田空港到着 出国手続後、空路サンフランシスコへ(UA 838 便)
	16日 (土)	サンフランシスコ着 パロアルト市着	10:20 昼	サンフランシスコ国際空港到着 入国手続後、パロアルト市へ パロアルト市で歓迎パーティー@JLS 中学校 パーティーでホストファミリーと対面 (ホームステイ)
2	17日 (日)	パロアルト市	終日	ホストデイ(家族とともに) (ホームステイ)
3	18日 (月)	パロアルト市	終日 夕	生徒はバディとともに学校へ 夕方、パロアルト市議会訪問 かすみがうらマラソン招待選手との夕食会 (ホームステイ)
4	19日 (火)	パロアルト市	終日	生徒はバディとともに学校へ (ホームステイ)
5	20日 (水)	パロアルト市	午前	Google 社見学 (ホームステイ)
6	21日 (木)	パロアルト発 ヨセミテ着	朝 昼	各学校(JLS中・Greene 中)集合後、ヨセミテへ ヨセミテ国立公園見学 (ヨセミテ泊)
7	22日 (金)	ヨセミテ ヨセミテ発 パロアルト着	午前 昼 夕方	ヨセミテ国立公園見学 パロアルトへ パロアルト帰着、ファンナイト (ホームステイ)
8	23日 (土)	パロアルト市	終日	ホストデイ(家族とともに) (ホームステイ)
9	24日 (日)	パロアルト市 パロアルト市発 サンフランシスコ市	9:00 10:00 12:00 午後	答礼パーティー会場集合 答礼パーティー開始 パーティー終了後、サンフランシスコへ サンフランシスコ市内見学、ゴールデンゲートブリッジ等 (サンフランシスコ泊)
10	25日 (月)	サンフランシスコ市 サンフランシスコ発	朝 12:10	朝食後、サンフランシスコ国際空港へ 出国手続後、空路成田へ(UA837 便) (機内泊)
11	26日 (火)	成田空港着 成田空港発 土浦市着	15:30 夕方	成田空港到着 入国手続後、バスにて土浦市へ 三中地区公民館着後、解散

派遣生レポート

事前研修・結団式

担当：土浦第六中学校

◇事前研修◇



2/1 1回目

グループごとに分かれて ALT の先生と英会話研修や滞在中のスケジュール確認、バディ確認、派遣生代表者決定や報告書の役割分担など。

2/14 2回目

グループごとに分かれて ALT の先生の英会話研修、プレゼンテーション発表練習や答礼パーティーの練習など。



3/1 3回目

渡航の際の注意や連絡、持ち物や現地での動きの最終確認や答礼パーティーのリハーサルなど。

◇結団式◇ 3月16日(土) 霞浦の湯 大ホール会議室



- ・主催者、来賓あいさつ
- ・派遣生、引率者代表あいさつ
- ・パロアルト市への土産品披露

いよいよ出発ということもあり、緊張感が漂う中行われましたが、たくさんの励ましのお言葉をいただいたおかげで安心して出発することができました！



歓迎パーティー

担当：土浦第二中学校

長い飛行機も終わり、ついにバディとの対面になりました。パロアルトの生徒達は、みんなで、パロアルトと日本の国旗を持って、私たちを迎え入れてくれました。バディとの対面で少し緊張したけど優しく話しかけてくれて嬉しかったです！



パーティーの会場に入ると、部屋は飾りつけされていて、凄かったです。お昼ご飯は主に日本とアメリカのものがバイキング形式になっていました。デザートには、バディが作ってくれたクッキーや、マフィンなどもありました。



最初に、パロアルトの代表生徒の人、保護者代表の人からの挨拶がありました。

私たちは、お昼ご飯を食べながらバディやバディの家族と沢山お話をしたり、これからの予定を話したり、写真を撮ったりしました。ホストファミリーは、みんなフレンドリーで私たちの緊張を和らげてくれました。ホームステイの始まりとして、有意義な時間を過ごすことができ良かったです。

JLS 中学校

担当：土浦第三中学校



授業は、プリントなどを使い先生が質問するだけでなくグループのみんなで積極的に話し合ったりしていました。

電子黒板を中心に授業をしていました。

また、日本語だけでなくスペイン語・フランス語などの教科もありました。

そして日本語の授業では、日本について学習するだけでなく、日本語でアニメや映画などを見たり先生が質問したことに対してみんながそれぞれの意見をしっかり答えていました。



学校でみんなが集まると頑張って日本語で話してくれました。

さらにJLS中学校では、2時間目が終わるとおやつタイムのようなものがあり、みんな様々なものを食べたり、友達とおしゃべりをしたり休憩時間がありました。



JLS中学校は、日本より自由な学校生活だと感じましたが、生徒1人1人がきちんと個々の意見を言える素敵な学校でした。



Greene 中学校

担当：土浦第四中学校

グリーン中学校はジョーダン中学校という名前から改名された学校です。

通学方法はスクールバスや車、自転車、徒歩です。

昼食は購買でかったり、お弁当を持ってきたりして

いました。授業が終わると、みんなで楽しく会話をしていました。また自分の知らない人でも、「Hello」とあいさつをしてくれました。とても心の広い生徒がたくさんいました。



授業は日本よりも内容のレベルが高いため、積極的に発表したり、自習のときは静かに勉強していました。クラスがないので、自分で次の授業の教室に行きます。机は大体4人で1つ使えるくらい

の大きさでした。日本語クラスでは、派遣生が日本についてプレゼンテーションをした後クイズをしたり、私たちの歓迎パーティーを開いてくれました。

校則は日本と違い、お菓子を持っていけたり、

ネイルや化粧をしていってよかったりと自由でした。

部活動がないので、スポーツをしたい人はク

ラブチームに、音楽をしたい人はオーケストラ

やブラスバンドに入る人もいます。



校舎は一階建てで日本の中学校よりも新しく何倍も大きかったです。

Google 見学

担当：都和中学校

【Google】

1998年スタンフォード大学の大学院生であったラリーページらによって設立された検索エンジンサービス会社。インターネットを使う人なら知らない人はいない世界的企業であり、Google マップは、地図や衛星写真、道路に沿った町並みの写真を表示できます。

また、Google の由来は、10の100乗を表す「googol (ゴーゴル)」です。インターネット上の膨大な情報を組織化するという意味が込められているそうです。

本社



社内の様子

本社はとても広く、きれいでした。その広大な地域を移動するため色々な場所に自転車が置いてありました。一番驚いたのが、ボーリング場があることでした。食堂、カフェ、遊戯場など Google はもう会社じゃなく一つの街だと感じました。また、行きたいところです。



ヨセミテ国立公園

担当：新治学園義務教育学校

ヨセミテ国立公園はカリフォルニア州の中東部，シエラネバダ山脈に広がる自然公園です。世界的にも日本人にとっても有名な国立公園のひとつで，日本人が訪れる国立公園としてはグランドキャニオンと並んで最も人気が高いそうです。

最初にバスから降りたのはヨセミテ国立公園を見渡せるトンネルビューの高台でした。そこでまず感じたことは，そのスケールの大きさです。4000m級の山々、1000mの絶壁は，私がこれまでに見たどの風景よりもダイナミックなものでした。

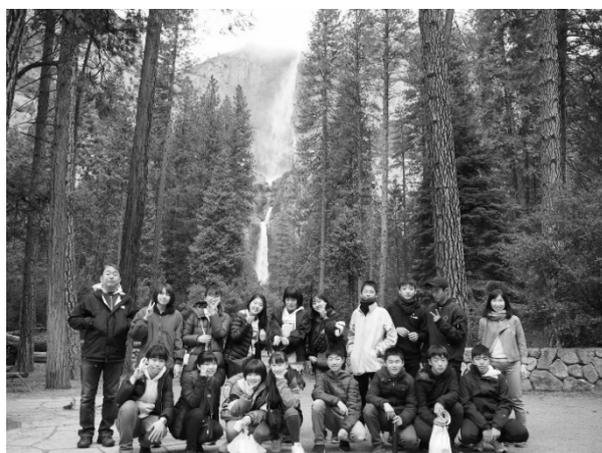
次に行ったのは，ブライダルベール滝でした。滝は，高さが188メートルで，1年中水が流れています。ガイドさんの話によると，

「ここに暮らしていた原住民のアワニチ族は，ブライダルベール滝はポホノと名付けられた渓谷の入口を守る復讐神が住んでおり，渓谷を去るときには，滝に直接立ち寄ると祟られると信じている。ブライダルベール滝の霧が人の結婚する機会をつくるとも信じている。」

と話してくれました。私も，この霧に覆われた神秘的な滝を見て，アワニチ族が神の存在を感じことに納得しました。

公園内のロッジに宿泊し，2日目は，ヨセミテの滝付近の散策をしました。草原を抜けるとヨセミテの滝がありました。ヨセミテの滝は昨日のブライダルベールよりもさらに巨大で，落差739mと北アメリカで一番の落差を誇る滝です。我々が訪れた時期は雪解け水でとても迫力がありました。しかし，8月になると殆ど水が無くなるそうです。ブライダルベールで感じたもの以上の迫力を感じ，圧倒されてしまいました。

数億年という長い年月をかけて，水の流れが作った物であると思うと地球の歴史の果てしなさを感じました。



Farewell party 2019

担当：土浦第一中学校

ホストファミリーとお別れの日。
みんなで一緒に楽しみました。



まずは、外で桜の木を植樹しました。
バディとペアになって土をかけましたが、10日間でできたきずなでみんな息ぴったりでした。



ミニゲームは、『箱の中身はなんじゃろな』
というゲームをしました。英語でのルール
説明は難しい場面もありましたが、みんな
笑って楽しんでいました。



最後に、パロアルトの生徒と日本の
生徒だけで集合写真を撮りました。
最後も楽しく笑顔でお別れを
しました。みんなホストファミリ
ーとバスに乗り込むまで話をし
ていました。

いよいよ別れの時、バディたちが
私たちの乗ったバスを走って追
いかけてきてくれました。そのと
きは、感極まって泣いている人も
いました。



帰国報告会

担当：土浦第五中学校

○市長からのあいさつ

中川市長を始め、来賓の方々から
ご挨拶をいただきました。



○派遣生代表あいさつ

派遣生代表の久保田一冨さんから
あいさつがありました。パロアルトで経験
したことや、学んだこと、そして無事帰国
できた感謝の気持ちを出席者の方々に
力強く伝えました。



○引率者代表あいさつ

引率者代表の日沢先生(土浦三中)から
今回の派遣についての報告と、これからの
ことについてのお話があり、熱い思いが
伝わってきました。



○土産品の贈呈

派遣生が来賓の方々にパロアルト市から
の土産品を贈呈しました。

○派遣生の帰国報告

派遣生ひとりひとりが、アメリカでの体験で得
られたことや、それぞれの思い出を、目を輝か
せながら、話していました。またこのような派
遣に参加したいですかとの質問に、全員が手を挙
げていました。



My host family



Ezra: 料理がとても上手な僕のバディ

Ayaan: 日本語がとても上手なお兄さん

Caren: いつも気さくなお母さん

Shashank: インド出身で、
いつも話してくれるお父さん

《Host day》

一日目：ミステリースポットという場所に連れて行ってもらいました。そこでは、板が斜めになっているのに水が上に上がって行くというものなど不思議な場所でした。ミステリースポット以外にも、物凄く綺麗な山にも連れて行ってもらい、その山からは、Google と Yahoo! の COO の家が見えました。この日の夕食はインド料理が出てきました。僕が、これは何ですか？ と尋ねると、マザーは、ナンの生地を使った器の中に、カレーの風味がする……なにかと言っていました。美味しかったです。



二日目：午前中は、自然の綺麗なキャンプができる森に行き、ホストファミリーと一緒にバーベキューを楽しみました。色々な自然が楽しめる場所で、小さな博物館の様な所もあり、そこには動物の標本がありました。午後は、Ezra が所属しているサッカーチームと一緒に練習をしました。アメリカのサッカーは、すごい運動量だと感じました！夕食は、インアウトバーガーという有名なハンバーガーショップに連れて行ってもらいました。シンプルなハンバーガーですが、とてつもなく美味しかったです。



My host family



Father・日本出身の Google に勤めている優しいお父さん

Mother・日本出身の優しいお母さん

Older Brother・私と同じ年

バトミントンが得意

Buddy (梨乃)・とっても優しい

日本のアニメが大好き

Younger brother・サッカーが大好きな

かわいい男の子

Host day



最初のホストデイは Santa Cruz Beach Boardwalk に連れて行ってもらいました。そこは、ビーチに遊園地が併設されているアミューズメントパークで、他の研修生と一緒にピクニックをしました。95年の歴史があるジェットコースターに乗って半泣きになったけど楽しかったです。



最後のホストデイにはスタンフォード大学に見学に行ったり、夜には、派遣生のみんなとトランポリンがたくさんある「スカイハイ」という施設に行ったりしてトランポリンやドッジボールを楽しみました。

♥ My host family ♥

土浦第二中学校 東原 羽杏



Buddy (Emmy)

歌がうまくて笑顔がキュート！
元気いっぱい運動神経抜群！
大好きな私のバディ

Brother (Max)

優しく笑顔が素敵なお兄ちゃん

Mother (Sharon)

いつも優しく話しかけてくれたお母さん

Father (Chris)

優しくとっても面白いお父さん



< Host Day >

いつも色々な所に連れてってくれたホストファミリー！
歓迎パーティーが終わってからショッピングモールに
連れてってもらいました。夕食は、本場のアメリカの
ハンバーガーを食べました。
とても大きくて凄く美味しかったです！



1日目のホストデイでは、遊園地に連れ
てってもらいました。猛スピードで回るブラ
ンコや日本には無いようなアトラクションが
沢山ありました。また、ビーチもすぐそばに
あり、とても広かったです。

2日目は、スタンフォード大学に行きました。
到着してすぐの大学の大きさにとても驚きま
した！スタンフォード塔の頂上に登ると、高所
恐怖症なのでとても怖かったです。遠くまで
広がる景色が本当に綺麗でした！その後は、ホストファミ
リリーと一緒に買いものに行き、自分が買った物も
買えたので嬉しかったです♥

夜は、バディのお父さんが作ってくれたステーキを食べな
がら家族と一緒に映画を見ました。お肉が凄く柔らかくて
とても美味しかったです！また、その後に他のバディ達と
も一緒にトランポリンで遊べる場所に行きました。

ホストファミリーと一緒に過ごした日々は、毎日とても楽しくて本当に感謝
しています！！！！

☆ MY HOST FAMILY ☆

Dad :)

優しくてカッコいい
お父さん
車でいろいろなところ
に連れて行ってしてくれま
した。

Mam :)

優しく面白い Mam
Mam の笑顔で
寂しさを忘れること
ができました。



Brother :)

一緒にバスケットをしてくれて
面白かったです。

Buddy Karis :)

明るくて優しくて日本語が上手。
一緒に動画を見たりトランプをしたり
とても楽しかったです。

☆ HOST DAY ☆

初日はビーチと遊園地に行きました。
日本とは少し違ったアトラク
ションやゲームがあり、みんなと
楽しく過ごすことが出来ました。
2日目はショッピングに行きまし
た。Buddy と一緒に話しながらお
土産を買いました。Buddy との会
話が増えて、とても楽しかったで
す。



今回のホームステイで Host Family には家族の様に接してもらい、たくさん
の事を経験させてもらいました。本当にありがとうございました。

MY HOST FAMILY



Mom : Renat
笑顔が素敵でやさしいお母さん
Dad : Shai
面白くて力持ちなお父さん
Buddy : Yamm
日本語が上手なバディ
Brother : Barr, Reef
優しく接してくれた Yamm の弟

Host Day

1 日目 : Stanford Shopping Center
自転車でスタンフォードショッピングセンターに行きました。
オシャレな店があつて日本とは違った雰囲気でした。



2 日目 : BBQ Shop
ホストファミリーと夕食を食べに行きました。沢山の肉やポテトが出てきて、驚きました。スパイシーでおいしかったです。

最高の体験ができました！
Thank you for everything!



☆☆ **MY HOST FAMILY** ☆☆

土浦市立第三中学校 山口 心奈

Buddy : Palina

友達が多くて、明るく元気なバディ

Father : Sergi

困っている時に話を聞いてくれ、

私の事を気にかけてくれる優しいお父さん

Mother : Olga

いろいろな話を聞かせてくれる、笑顔が素敵なお母さん

Brother : Slava

とてもクールで、フォートナイト（ゲーム）が大好きなバディの弟

HOST DAY

1日目：サンタクルーズビーチにバディや他の研修生たちと行き、バディに誘われて苦手なジェットコースターにも乗ったり、ビーチで絵を描いたりしてみんなで楽しい時間を過ごせました。その帰りにスプラッシュというお店に行ってクラムチャウダーを食べました。とっても美味しかったです。

7日目：バディと一緒にいられる最後の日、研修生全員で買い物に出かけた後、夜に皆で集まりトランポリンランドで遊びました。日本では、夜にそんな所に行けないのでとてもびっくりしましたが、とても楽しく思い出に残りました。



My host family



土浦第四中学校 小澤翔瑛

Owen : 優しくてゲーム好きなバディ

Owen : 親切で面白いお父さん

Jennifer : いつも笑顔なお母さん

Harriet : 水球をしている似た者同士

Henry : とても活発で可愛い猫

Host day

～スタンフォード大学～



スタンフォード大学はカリフォルニア州に本部を置く私立大学である。私は、水球と野球を観戦しました。大学生とは思えない力強いプレーに日本との違いを感じました。

～サンタクルーズ～

サンタクルーズの近くにあるビーチに連れて行ってもらいました。絶叫系が苦手な私には、日本のものよりも怖く、心臓に悪かったです。



My host family

土浦第四中学校 田村 美咲



mother : Zeene

いつも明るくて料理が上手でアメリカについていろいろなことを教えてくれる Youtuber

father : Mike

日本のお寿司が好きで面白くて優しいお父さん

brother : Tyler

オーケストラでチェロを奏でるクールな兄

Buddy : Kaila

家族思いで優しくてアニメと絵を描くことが好き。バレーボールが得意

Santa Cruz



3/17 は、Santa Cruz【サンタクルーズ】という遊園地に行きました。

どっちも怖いのが苦手だけど少し怖いものに乗って楽しみました！

また、屋台のようにゲームに勝って景品をゲットするところもありました。



サンタクルーズには大きなビーチがあり、ハンバーガーとポテトを食べました。お昼を食べた後、海できれいなシーグラスを拾ったり、波が来るのに気づかず急いで逃げたりして遊びました。



TESLA factory

3/19 に私はテスラという車のメーカーの工場に行きました！電気自動車が有名！大きなロボットで組み立てたパーツを移動させているところが迫力がありました。細かい部品の取り付けは人が丁寧に

していました。どんどんカッコいい車に近づいてくのが面白かったです。そのほかにもショッピングモールや動物園、図書館などに連れて行ってもらいました。本当にありがとう！

My host family

Buddy:Nate 野球が大好きな元気で明るいハンサムボーイ。話しやすく親切なところが大好き！

Father とても親切で私のことをたくさん助けてくれました

Mother 愛情たっぷり毎日優しくお世話していただきました

First brother 高身長なイケメンお兄さん。バスケが上手！

Second brother 野球が大好きな熱血お兄さん。野球が上手！



Host Day

～3/17～

海と面している遊園地へ行きました。規模の大きさと、遊具などの多さに「さすがアメリカだなー」と感心してしまいました。長くて速いジェットコースターや美しい海でたくさん遊び、素晴らしい経験になりました。また、他の中学校の生徒やバディとも仲良くなれました。

～3/23～

スタンフォード大学ツアーと野球観戦に行きました。日本で表すと1つの中学校の学区ぐらいの敷地を持つスタンフォード大学。敷地の中には、歴史館やお土産ショップ、広いグラウンドなどたくさんの施設があり、学生が過ごす寮も足りないようで、建て増ししていました。バディのご両親もスタンフォード大学卒業で、スタンフォード大学の中にあるチャーチで結婚式を挙げたそうです。

野球観戦ではプロ並みのスピードの投球やホームランなどが間近で見られてとても楽しかったです。

～3/23～

大学ツアーの後はトランポリンがたくさんある施設へ行きました。他の中学校の生徒やバディもたくさん来ていて、とても盛り上がりました。私は前宙やバク宙をたくさんしすぎて半分酔っていました。

このパロアルト派遣で培った経験を、グローバル化が進むこれからの人生に活かし、私の素晴らしい財産としていきたいです。



My host family

土浦第五中学校 中村 真緒



Buddy: とても優しく、友達がたくさんいる
(ジャスミン) 私のバディ。K-pop 大好き girl。

Father: ヨセミテ公園に行く時に、現地の気温を調べてくれて、寒くなるからとマフラーを貸してくれたお父さん。本当に嬉しかった。

Mother: 私の体調を気遣って、ハニーレモンを作ってくれた優しいお母さん。大学生の時茨城にホームステイしていた事があると聞いてビックリ！！

Host day

♡パロアルトに着いた日の夜、ホストファミリーと「キャプテン・マーベル」という映画を見に行きました。映画館の座席がリクライニングシートで、高級なマッサージチェアに座っているようでした。上映中に「ワオ！」と歓声が上がったり、笑いが起きたりと、日本には無い観客のリアクションで、映画が余計面白く感じました。

♡海沿いにある Santa Cruz Beach という遊園地にも連れて行ってもらいました。すべてのアトラクションが絶叫系で戸惑いましたが、乗って見たら、西海岸の風を受けてのスリル感がたまらなかったです！

♡ホームステイ最終日には、スカイハイという屋内の巨大トランポリンの施設に連れて行ってもらいました。他の派遣生やバディも来ていて、一緒にドッジボールをやったり、みんな心も体もはじめてたね！！



Cooking Night



親子丼を作りました。行く前に私のお母さんから特訓をうけて、本番でうまくできるか緊張したけど、ジャスミンに手伝ってもらいながら、どうにか完成しました。味が少し薄かったけど、みんなが「good!」と言って美味しく食べてくれました。



☆この思い出は一生忘れません…Thank you very much! ☆

My Host Family



Buddy : Austin

いつも明るく元気な最高のバディ。

Mother

いつも僕のことを気遣ってくれた親切なお母さん。

Father

パロアルトの街を案内してくれた優しいお父さん。

Host Day

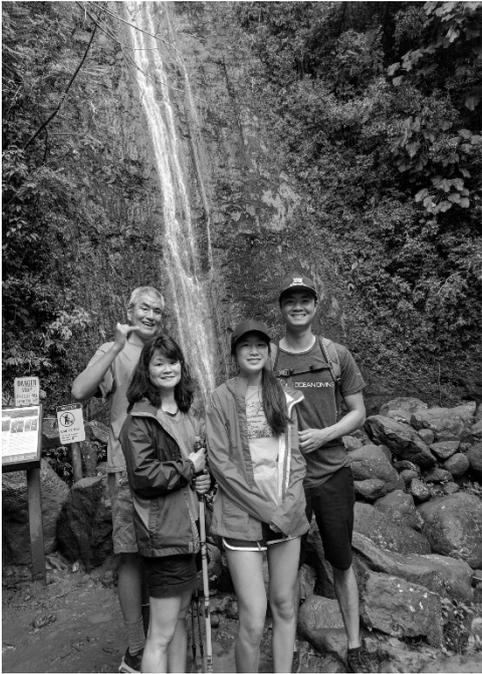


僕はサンタクルーズにある遊園地と海に行きました。
他のバディと派遣生も来ていたので仲を深めることができました。

遊園地ではジェットコースターに乗りました。日本とは比べ物にならないくらい怖かったです。海では波に向かって行ってみたり、砂に埋もれてみたりしました。とても楽しかったです。



My Host Family



Mother (Lynn)

優しくいつも笑顔で接してくれるお母さん！
日本語で話してくれることも。

Father (Craig)

優しく明るくてたくさん話しかけてくれたおもしろいお父さん！

Buddy (Caitlyn)

明るくていつも優しく接してくれた同い年のバディ！

Brother (Kai)

ビデオ電話で少ししか話せなかったけど、明るくて優しいバディのお兄さん！

Host Day

アメリカに着いて歓迎パーティーをやったあと、もう一つの家に行き、その近くの海に行きました。海もすごく綺麗だったけど、もうひとつ家があることに衝撃を受けました…。



次の日はサンタクルーズにある遊園地に連れて行ってもらいました。他の派遣生とバディともたくさん会いました。スリリングな遊具が多かったです。



2日目のホストデイは、スタンフォード大学の見学に行き、そのあと大きなショッピングモールに行きました。他の派遣生とバディとも一緒に行って、みんなでお店に行ったり、アイスを食べたりしたのでみんなとの仲が深くなったきっかけでもあると思います！

Thank you for the wonderful memories!!



Buddy : 日本とゲームが大好き
(Gio) 面白いバディ!

Father : 明るくたくさん
話しかけてくれたお父さん

Mother : 僕のことをいつも考えて
接してくれた優しいお母さん

Sister : 絵が上手で人懐っこく可愛い妹

Brother : 運動神経が良く
仲良くしてくれた弟

☆santa cruz beach☆

絶叫系の乗り物が多く僕はさすがに怖かったです。
けれどバディは「全然、平気だよ～」と余裕の表情でした。

昼食は本場アメリカのハンバーガーを食べました。アメリカの食べ物は全てがBIGサイズでした。とても美味しかったです。



他にもさまざまな場所に連れて行ってくれました。
思い出いっぱいの最高の日々でした。

MY HOST FAMILY

都和中学校 内田 歩乃樺

Buddy: Alexandra Filippova

水泳が得意な優しく穏やかなバディ

Brother: Misha

可愛くて、ジブリが好きな男の子

Father: Vaicily

Apple に勤めている日本大好きなお父さん

Mother: Natalya

いつも明るく親切な優しいお母さん



HOST DAY

Santa Cruz Beach という遊園地に行きました。

遊園地は、海の隣にあり、とてもきれいな景色を見ることができました。

また、ショッピングセンターでは、

ザ*アメリカ (big) というアイスを食べました。



my host family



- buddy (Franklin) 鉄道が大好き、日本の新幹線も詳しい
- father 物知りで、いろいろなことを教えてくれる
- mother 料理がとてもうまい、一生懸命コミュニケーションを取ろうとしてくれた

host day



(1日目)

Buddy(Franklin)の友達の誕生日会に参加しました。ゲームをしたり、ピザを食べたりした後、家の近くにある映画館で映画を見ました。全部英語で内容は分からなかったけれど、楽しかった!!



(2日目)

アメリカ軍の博物館に行き、空母の中を見学しました。甲板に上がると、そこには戦闘機が展示されていました。本物はすごい迫力がありました。また、当時の戦争の様子を係員の方から聞くこともできました。甲板から、写真で見たことのあるサンフランシスコの街並みを実際に見た時は感動しました。

cooking night

クッキングナイトで私は焼きそばを作り、ご馳走しました。Host family は気に入ってくれたようで、「The taste is so good」と言ってくれました。



MY HOST FAMILY

新治学園義務教育学校 青山 朋未

Buddy: 明るくて友達が多い！頭が良くて運動神経も良いバディ！いろんなことを教えてくれた！

Dad: Google で働いている物知りなお父さん！

Mom: たくさん私に話しかけてくれた明るいお母さん！

Sister: いつも笑顔でかわいい妹！

Brother: スターウォーズが好きで元気な弟！



Host Day

3/17

大きなショッピングモールに連れて行ってくれました。タピオカジュースを飲んだり、服を買ったりしました。夜ご飯も食べて、帰ってきたのは夜の9時。友達へのお土産が買えたので良かったです。



3/18

Santa Cruz Beach という海に隣接した遊園地へ行きました。日本にはないようなアトラクションがあり、とてもワクワクしました！

派遣生のほとんどがこの遊園地に来ていたのでバディとも派遣生とも仲良くなることができました。



3/24

ホストデイ最終日はスタンフォード大学、スタンフォードショッピングセンター、スカイハイへ行きました。ほかのバディと派遣生も一緒に行きました。たくさん貴重な体験をすることができ、とても楽しかったです。

パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第一中学校 大西 治嘉

今回のパロアルト派遣を通じて、目標であった、世界の共通言語である英語を話せるようになるという目標の土台を作ることが出来ました。

もちろん、10日間で英語を完璧に話せるようになるのは無理があります。ですが、こちらから相手に話しかけていく回数を重ねていくだけで、英語の受け答えが段々と早くなっていくように感じました。重ねて、英語で話すことの楽しさも感じる事が出来ました。この派遣で、英語について様々な考えを持つ事が出来て本当に為になったと感じました。

目標の達成だけでなく、ホームステイの楽しさと、日本との違いも感じる事が出来ました。まずは、ホームステイの楽しさですが、違う言語の方々と過ごすということは、こちらから話そうと頑張って、そして相手側もどうにかして理解してもらえるように話しかけてくれるので、そこで多くのコミュニケーションが生まれ、そしてそれにより笑顔になり、ホストファミリーと過ごすうちに楽しさがどんどん増してきました。

次に、文化の違いは色々ありましたが、特に学校です。日本の学校と違って、物凄く広くて、現地の学校のサッカーコートに一中が全部入ってしまう位の広さでした。

このパロアルト派遣は、自分の気持ちを大きく変える旅になりました。この派遣で、僕は、将来の夢も手に入れることができました。僕は、この派遣で海外を飛び回る仕事に就きたいと思いました。その為には、勉強あるのみだと思うので、特に英語の勉強にこれからは力を入れていきたいと思います。

英語で現地の人と話すのはやはり難しいことでした。自分から話すことは、容易に出来ました。ですが、相手が言っていることや、その受け答えは、本当に分からない場面が多数ありました。ですが、分からない事をそのまま分からないままにしていたら相手には通じないので、その場面だけは翻訳機を使用し、その後は、しっかりとその単語を暗記しました。このように、海外に行って英語を使う際は、余程英語が堪能な人でないと最初は自分が話せると思っていても絶対に話せません。ですがそこで、話そうとチャレンジすることを恐れない事が大事なんだとこの派遣で感じました。まだまだ英語は未熟で、あまり会話を長く続けることはできませんが、この派遣によって確実に英語力は向上したと感じます。

僕は、好きなことには熱中して取り組むことが出来るので、僕の大好きな英語の勉強を日本で日々積み重ねていきたいです。それともう一つ、今回の様な、海外の人と話せる機会や、海外に行けるプロジェクトがあったら積極的に参加したいです。直接海外の人と話すことが一番の近道だと思うからです。今回の派遣は、本当に良い経験になったので、この経験は一生忘れないと思います。

パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第一中学校 藤原 彩羽

私がこのプロジェクトを知ったのは小学校中学年の頃です。私は幼い頃から英会話を習っていて、海外での生活にとっても興味を持っていました。

校内で派遣生に選ばれてからは、新しい環境になじめるか不安でいっぱいでしたが、事前の研修会で一緒に行く仲間と英会話やパロアルトについて学ぶ中で絆が深まり、いろいろな期待が膨らんでいきました。

現地の JLS 中学校に着くと、バディたちはバスに駆け寄り私たちを笑顔で迎えてくれました。バディに温かく迎えられて私の不安は吹き飛びました。また、バディと出かける際は、他の派遣生とそのバディと一緒にだったので寂しさを感じず過ごすことができました。

アメリカでの生活で日本との違いを最も感じ、びっくりしたのは現地の学校です。お菓子を食べる時間があり、ピアスをしている生徒も多く、自由度が高いのだなと思いました。一方で学習している内容はとても難しく、例えば数学だと日本では高校生で学習する二次関数をアメリカでは私たちの1つ下の学年で勉強しています。また、パソコンなどの IT 機器が一人一台あり日本の学校よりも進んでいると感じるとともに日本もこのようになればみんな学習するのが楽しくなると思いました。

驚いたことは他にもあります。例えば、多国籍企業である Google 本社には、世界のどこの本社にいてもすぐにアイデアを共有できるようにビデオ通話ができる会議室、仮眠室、洗濯機やシャワールーム、仕事で疲れたり行き詰ってしまったときにリフレッシュできるようにとサッカーゲームなどができる設備があるということです。日本も近い将来このように働きやすい環境になってほしいと思いました。また、広大な敷地を車ではなく自転車を使って移動していて健康的でエコにも繋がっていると感じました。

他にも、日本のアニメや文化はとても人気があり、現地の学生が日本語を専攻する理由の一つになっているということです。ショッピングモールでは、日本のアニメの T シャツやグッズがたくさん販売され、アミューズメントパークでは英語の他にも、カタカナで「サンタクルーズ」と書かれたパーカーが売られていました。また、パロアルトの生徒も箸を器用に使っていて驚きました。他にも、スターバックスには抹茶味の飲み物があつたり、お寿司にはしょう油とわさびがついていたりしました。しかし、わさびは日本のものと違いパステルカラーで全然辛くありませんでした。日本から離れたところで日本の文化に触れることで改めて日本の良さを感じる機会になりました。

今回派遣事業に参加して、日本の文化はさまざまところで世界に影響を与えていることを実感しました。そして日本の素晴らしいところをもっと世界の人に感じてもらいたいと思いました。そのためにもこれからもっと自分の英語力をつけて世界の人々とコミュニケーションを取れるように努力していきたいと思います。

最後に、私がこのような素晴らしい体験をすることができたのは、私を快く受け入れてくれたホストファミリーをはじめ、土浦市、土浦市国際交流会、パロアルト市の皆さん、その他この研修に関わってくださった多くの人のおかげで、感謝しています。本当にありがとうございました!!

パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第二中学校 東原 羽杏

私は、小学2年生の時英語を勉強するために2年弱家族でセブ島に住んでいました。その経験がきっかけで、私は他の国の文化の違いや考え方に興味を持ちました。そして、私の英語力を確かめたいと思い今回パロアルトへ行きたいと思いました。

私が一番印象に残っているのは、アメリカの学校です。『どんな学校なんだろう？』と楽しみで沢山考えていたら前日はなかなか眠れませんでした。朝は、ドキドキしながら初登校を迎えました。学校に着いたら、敷地の大きさに驚きました。自分が学びたいと思った授業を受けられる選択授業、ピアスを開けている子がいたり、髪を染めたり、お化粧品をしている子など、色々な生徒がいてとても1人1人の個性が大切にされていると思いました。日本の学校では出来ない様なことが多くて自分の個性を出して学校に行けるパロアルトのJLS中学校は日本とは違いとてもうらやましく感じました。また、数学の時間などに、生徒全員が日々パソコンを使用して授業を受けていました。この時、アメリカの凄さを改めて実感することが出来ました。

ホームステイでは、とても貴重な体験をさせてもらいました。最初は、自分の英語が伝わるか心配でしたが、『英語上手だね！』と言われてすごく自信にもなり嬉しかったです！バディの子とは、初日の夜にランプをしたり、変顔をして遊んだりと直ぐに仲良くなりました。お互いに知っている共通の音楽があって、2人で大熱唱しました。この1つ1つの思い出が今となってすごくかけがえのない時間となりました。最終日のお別れでは、バスの中で大号泣をしていました。

最後になりますが、この様な貴重な経験をさせて頂きました、土浦市役所の皆様、土浦市国際交流協会の皆様、この交換交流事業に携わって下さった皆様、すべての方々に感謝の気持ちで一杯です。パロアルトで過ごした日々はとても充実していて、濃い10日間となりました。この経験を生かし自分の将来の夢に繋げていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第二中学校 市川 瑞規

私は今回のパロアルト派遣事業を通して沢山の事を学び、日本との違いを感じる事が出来ました。特にアメリカの学校では日本との違いを多く見つける事が出来ました。アメリカでは靴箱が無く、全員靴のまま授業を受けていました。日本では毎時間自分たちのクラスに先生が来ますがアメリカでは生徒一人一人が大きなファイルにプリントを入れ、それを持って教室間を移動していました。一人一人にロッカーがあり、そこに必要のない携帯電話等をしまっていました。また、ホームルームが無くいつも同じクラスにいないので学校全体がみんな友達のような感じでした。外にグラウンドはなくバスケットコートが設立されており、とてもいいなと思いました。

ホストファミリーは気軽に話しかけてくれてとても親切でした。バディに初めて会った時には案の定英語が聞き取れずパニックになりました。しかし、バディはジェスチャーや単語で一生懸命伝えようと努力してくれました。また、緊張して不安でいた私に少しでも気を和ませようと知っている限りの日本語を話してくれてとてもうれしかったです。初日バディは水泳の大会があり一緒に遊ぶことが出来ませんでした。夕飯の時にたくさん話すことが出来ました。その日から夜は寝るまでずっと一緒に youtube を見たりトランプをしたりと楽しく過ごすことが出来、徐々に生活に慣れることが出来ました。

そんな生活の中で私が一番感じたことは、アメリカの人たちはとてもフレンドリーで初対面でもテンションが高いということです。授業でバトミントンをした時も相手が同年代の男子で、最初は少しドキドキしたけど、私が打つとみんなで「GOOD!!!」と言ってくれてとても楽しくできました。みんな、温かくて優しい人たちだなと嬉しい気持ちになりました。また、最初は言葉が発せられなくても、みんなが優しく話しかけてくれたので少しずつ単語で話せるようになり、それでも十分に会話が通じるということが分かりました。

一日一日がとても短く感じあつという間でしたが、本当に忘れられない一生の思い出となりました。そして、今回の留学は将来への考え方に大きな影響を受けました。今よりももっと会話力を UP させ自分の将来に活かせるようにしたいと思います。最後にこのような貴重な経験をさせていただいたことに感謝しています。本当にありがとうございました。

パロアルト派遣を通して感じたこと

土浦第三中学校 武井 柊磨

僕は、パロアルト派遣を通して、貴重な体験がたくさんできました。この11日間でもとても驚いた事があります。

アメリカの人は、みんな親切です。日本を出るときは、英語だけの生活に、不安と楽しみな気持ちが入り混じっていました。また、自分は、知らない人とコミュニケーションをとることが少し苦手でバディと対面したとき少しもじもじしていました。でも、バディは積極的に話しかけてくれたので、すぐに場に馴染むことができました。不安だった気持ちもいつの間にかなくなっていました。

アメリカのごはんはすごく多いです。一回一回の食事の量が多くて常にお腹いっぱいでした。ピザの直径は50cmくらいだったと思います。バディの家には、調理器具もたくさんあり、日本ではあまり見かけないようなものもありました。日本に帰ってきてからの食事では、今までより食べる量が増えました。

アメリカの学校は、日本とは全然ちがいます。アメリカには自分のクラスがなく、荷物はロッカーに入れてそれぞれの教室に移動する形でした。学校でお菓子を食べていいなど少しうらやましく思うルールもありました。授業では、みんな積極的に手を挙げて発表していました。ルールが少なく自由な感じだったけれど、けじめもついて真似すべきところだと思いました。

これ以外にも驚いたことはたくさんあります。シャワーの使い方が違ったり、車が右側通行だったり、道がとても広かったり。とくに、シャワーはどう使うのか分からず、やけどしそうになりました。

最終日。今までサポートしてくれたバディと別れるときはさびしくなりました。今までで一番充実した日々で帰りたくないという気持ちもありました。

僕は、今回の交換留学で今の英語力ではまだまだだと感じました。普通に過ごしていたら絶対にすることのできない経験をする事が出来たので、この経験を活かせるようにしたいと思いました。今まで人にばかり頼っていたことにも気づけたので、自立できるように頑張るべきだとも思いました。この事業で多くのことを学ぶことができました。事業に関わった方々に感謝しています。

本当にありがとうございました。

パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第三中学校 山口 心奈

私は今回の交換交流事業に参加しようと決める前、英語が苦手の私が現地に行き「しっかり話せるかな？」最初はそんな気持ちでいっぱいでした。しかし、日本とアメリカの文化や環境の違いについて知りたいと思い参加しました。

英語しか通じない初めての環境、私のつたない英語ではコミュニケーションが取れるのか？伝えたいけど英語がわからない時どうしようとドキドキ・ワクワクでした。

私のホストファミリーはロシア語で日常話していらっしやったので、英語もわからない私にとってはとても大きな言葉の壁でした。しかし、そんな私にバディやホストファミリーのお父さんやお母さんが話をゆっくり聞いてくれたので少しずつですが、徐々に慣れていくことができました。

そして日本との違いに驚いたことパロアルトに行ってみて思っていたことと違ったことがいくつもありました。

まず1つは、日本とアメリカの学校の違いについてです。アメリカでは、同じ9年生でも日本より一歳上なので、学校の授業も高1の内容でした。当然私には全然意味がわかりませんでした。その他にも、日本は同じ教室で授業を受けることが多いですが、アメリカでは、一時間ごとに教室が変わり生徒も変わりました。日本の大学のような感じでした。服も制服ではなく私服で登校し、日本では教科書で授業を進めますが、アメリカは基本的にプリントで授業を行っていました。また先生たち一人ひとりがマイクのようなものを使い授業をされていました。お昼ご飯はお弁当や学校で購入ができる感じで、みんなで食べるのではなく個人で好きな人と食べていました。同じ学校でも日本の学校より全体的に自由だなあと感じました。

2つめは、パロアルトで行った様々なお店でお店の方々がとてもフレンドリーに優しく明るく話しかけてくださいました。支払いの際にはドル札のどれを出していいかわからなかったときも細かく親切に教えてくれました。私はアメリカの人は少し怖い人が多いと思っていたのですが、とても優しくて全然想像と違いました。

上記に挙げた以外でも私が思っていたものとは、違うものたくさんありました。今回の派遣で実際に知ることができ、参加できてよかったと思っています。

そして最後に、今回の交換交流事業に参加できたことで、パロアルトと日本の違いを肌で感じさせていただくことができました。とてもいい経験になったと同時に、日本での普段の生活では体験することのできないたくさんの体験をすることができ、本当に今回の交換交流事業に参加してよかったと思いました。

今回の派遣で出会った研修生のみんなと、今回の交換交流事業をしてくださった土浦市の皆様、派遣でお世話になった羽生様と日沢先生ありがとうございました。今回の貴重な体験ができたこと、様々な方々にサポートしていただき11日間過ごせたことに感謝しています。

パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第四中学校 小澤 翔瑛

私は、平成31年3月16日から平成31年3月26日までの11日間のパロアルト市派遣で2つ感じたことがあります。

1つ目は、言葉の壁です。私は普段から洋楽などを聞いており、英語に慣れ親しんでいると思っていました。しかし、いざ現地に行ってみると、英語しか聞こえず、一日中英語のリスニングテストを行っているような感覚で混乱しました。私は、身振り手振りやカタコトな英語を使って自分の気持ちを伝えられることができました。しかしながら英語でも日本語と同じくらいの語彙力、そして表現力を身につけたいと思いました。

2つ目は、アメリカの学校と日本の学校の違いです。日本の学校の授業は、先生が黒板に板書したものを生徒がノートに写すという形式です。しかし、アメリカの学校はタブレット端末を使いながら学習をしていました。さらにアメリカの学校には日本の学校と違って制服や給食がなかったのです。しかしながら、私がより衝撃を受けたことは授業中にお菓子を食べていたことです。日本では非日常的な行為ですが、アメリカでは日常的な行動なのです。アメリカと日本の学校の違いに驚きを隠すことができませんでしたが、アメリカの学校は自由でのびのびと学習している印象を感じました。

私は、今回の研修を通じて良かった点、悪かった点が一つずつあります。良かった点はコミュニケーション能力が向上して、見ず知らずの人さらには言葉が通じない人とでも気軽に話せるようになったことです。人見知りだった私にとって一つ壁を越えられたようで嬉しいです。ただ悪かった点は、自身の英語での表現力を過信しすぎていたところでした。いざ英語で話すとなると、やはり緊張してしまい思ったように話せないことがあります。私には、まだ英語を学べる機会がたくさんあるので今後はスピーキングに焦点を置きながら学習を進めていきたいと思います。

この良かった点、悪かった点を踏まえて今後の自分の生活に生かしていきたいと思います。

最後になりますが、今回はこのような貴重な経験を下さった両親、関わってくださった先生方また土浦市役所の方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。

パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第四中学校 田村 美咲

私は今回のパロアルト派遣を通して、日本にいただけでは学ぶことができなかったことを多く体験しました。

特に驚いたことはアメリカの方々のコミュニケーションとアメリカの生活の違いです。

私ははじめてのホームステイにわくわくしながらも、英語がうまく喋れるか不安な気持ちがありました。ですが、アメリカ人の方々によってわたしの不安な気持ちはすっかりなくなりました。特にホストファミリーは大変お世話になりました。いつも英語で喋るときには普通の速さよりも少しゆっくりと話してくれました。またもし英語が聞き取れなかったときや伝えられないときに私を理解して携帯の翻訳機を使って伝え合ってくれました。そのおかげで英語が少し上達することができました。クッキングナイトで手巻き寿司を作ったときにおいしいと喜んで食べながら、日本の寿司の話やアニメについて話したことが思い出です。学校に行った時にはバディの友達が授業内容を優しく気軽におしえてくれたり、「hello!」とあいさつして名前を呼んでくれたこともありました。

私はこの10日間でアメリカ人に対するイメージが変わりました。フレンドリーで自由なイメージはありましたが、何よりもとても思いやりがあり、多民族国家だからこそいろいろな国をありのままに受けとめている人が多かったです。

アメリカに滞在しているとき私は驚きの連続でした。まず浴槽がなく、シャワールームとトイレが一緒になっていることです。最初は使い方がわからなくて戸惑いましたがだんだん慣れることができました。次に学校についてです。授業は教室を移動して授業を受けます。しかし、移動する時間も含め授業と授業の間の休み時間が5分しかないのです。とてもメリハリがありました。学校にはお菓子の持ち込みが可能で休み時間に食べることができます。日本語クラスでは日本のクイズに正解した人におかしをあげていました。

私はアメリカと日本のそれぞれの良さや人との関わり方を新たに学び、自分の世界を広げることができました。また自分の英語の力を確かめることができ、更に上達するためのたくさんの努力が必要だと実感しました。本当にパロアルト派遣に参加してよかったです。このような体験ができたのは、ホストファミリーや土浦市や土浦市の市役所の皆様、そしていつも支えてくださる先生方や両親などの関係者の皆様のおかげです。10日間アメリカで過ごした貴重な体験を大切にして、恩返しとして社会のために役立てるように日々努力していきたいです。

パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第五中学校 久保田 一洸

この土浦市中学生交換交流事業に派遣生代表として参加させていただき、私の中でたくさんの意識が変化しました。映画で観ていたアメリカに、家族がいない状態で行くなど、想像もしたこともなかったので、いまだに不思議な気持ちがあります。そんな心細くなるシチュエーションに耐えられたのも、共に参加した仲間がいたからだと思っています。

先生にお声かけをいただき参加を決めたこの事業、準備の3か月はあっという間でした。初めての事前研修会、果たして団結できるのかと心配だった私に、たくさん話しかけてくれたメンバー達、会話しているうちにすぐに仲良くなりパロアルト派遣が楽しみになったことを今でも鮮明に覚えています。そのあとも研修会を重ね、信頼し合えたメンバーと行けることが一番の心の支えになっていました。

アメリカへ行く日が来ました。家族と別れた後は少し寂しかったけど、バスの中でメンバーと話しているうちにすぐにこれから起こることが楽しみになりました。

終わりがこないのではないかと思ったほど長かった飛行時間。着いた先にあった景色はもう映画でした。「感動」その2文字でした。不安を抱えている私にやさしく接してくれたホストファミリーには感謝でいっぱいです。10日間は風のように過ぎ去ってしまいましたが、そこで経験したことはいつまでも私の心の財産として生きていくことと思います。

私はこの事業に参加して次の2つのことを学びました。1つ目は、会話というものは心と心を通じ合ったときに初めて成り立つということです。まとめて言えばコミュニケーションが大事であるということです。2つ目は学習というものは教室だけではできないということです。いくら教室で英語の授業を行っても、外国人と本場で話した経験には勝ることはできません。新しいものを学習するうえで一番大切なのは、何事も体験や経験をしてみることであり、気が付くことが出来ました。

この事業を通して得た経験をこれからの生活に活かし、グローバル化の進む現代の中でさらに私の世界を広げていきたいと思っています。

パロアルト派遣を通して感じたこと

土浦第五中学校 中村 真緒

私の夢は、好きな英語を活かし、日本と世界を繋ぐ架け橋のような仕事に就くことです。小学生の時に海外のドラマ、音楽に刺激を受けて、日に日に海外に憧れを持つようになりました。英語がどんどん好きになり、いつかホームステイにもチャレンジしてみたいと思っていたので、今回、このような形で実現できる事が決まった時は、涙が出るほど嬉しかったです。それと同時に、この与えてもらったアメリカでの11日間は、私の夢への一歩になると思ったので、失敗を恐れず、積極的に英語を話してみようという気持ちにもなりました。

初めての海外ということもあり、心弾む思いで出発しましたが、アメリカに着き、パロアルト市に向かうバスでの移動中に、なぜか急に不安と緊張が襲ってきました。「パロアルトの人達は私を受け入れてくれるだろうか」「ホストファミリーに溶け込めるだろうか」そのような思いが溢れてきたのです。会場に近付いた頃、私の目に飛び込んできたのは「Welcome」の旗を持った、弾けそうに元気なバディ達の姿でした。私はそれを見た瞬間、今までの不安が嘘のように消え、笑顔になりました。

私のバディ、ジャスミンは、優しく可愛い女の子。私と同じ一人っ子なので、どこか相通ずるところがあり、学校の話などで盛り上がりました。両親は、私のことをいつも気遣ってくれて、何の不自由もなく過ごすことができました。みんな英語の発音がきれいで分かりやすく、とても勉強になりました。

私が今回、一番印象深かったことは、バディが通う JLS 中学校での体験です。生徒たちがみんなフレンドリーで、アメリカのドラマのような光景が広がっていました。制服がない事は知っていましたが、みんな、個性を活かした服装で、ピアスやメイクをしている生徒もいて、日本ではあり得ないことなので、規則に縛られない自由さを羨ましく思いました。給食も無く、みんなそれぞれ違う物を食べていました。おやつタイムもあり、お菓子持参が当たり前になっていることにも驚きました。授業は、日本のように解った人が手を挙げて答えるやり方ではなく、先生が生徒を指名して、発言させ、全ての生徒が自分の意見を持てるように、自己主張できる環境を作っていました。このような事から、アメリカには日本に無い価値観が広がっていて、一人一人の個性を大事にしているように思いました。私達が当たり前と思っていた常識は、日本だけの常識だったんだなど、自分の国を離れ、アメリカの文化に触れることで、気づくことができました。またそれは、それぞれの国の良さなのだと思います。

今回、この派遣を通じて、異文化に触れる事がどれだけ必要かを知り、私達の世代がどんどんこのような経験をし、視野を広げ、海外との交流を深めれば、世界はもっと平和になるのではないかなと思いました。私はこの夢のような11日間を経て、海外で働いてみたいという思いが更になりました。

このような貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第六中学校 渡邊 創太

僕はこの事業のことを知ったのは中学1年生の時でした。その時は「そんな事業があるんだな」と思っていただけでした。中学2年生の時にこの事業を改めて知って「面白そうだな」と思い参加しました。出国の日が近づくにつれてアメリカに行くのがどんどん楽しみにになりました。空港に着いた時、僕は「楽しみだな」という気持ちより「大丈夫かな、英語で会話できるかな」という不安な気持ちでいっぱいでした。飛行機の中でもこの不安な気持ちは変わりませんでした。こんな気持ちのまま、アメリカに着いてしまいました。

アメリカに着いて初めてバディにあった時は「バディに会えて、とっても嬉しい」という気持ちと、「これからうまくやっていけるかな？大丈夫かな？」という気持ちになりました。アメリカに来た時、僕はあまり元気ではありませんでした。そんな時にバディは、「Are you OK?」と優しく問いかけてくれました。とても嬉しかったです。ホストマザーとホストファザーはほぼ毎日「おはよう」、「おやすみ」とあいさつをしてくれました。ホストマザーからは、スタンフォード大学のTシャツとGoogleの帽子をもらいました。とても嬉しかったです。ありがとうございました。

ホストデイの時にはホストファミリーと一緒にサンタクルーズの海と遊園地に連れてってもらいました。僕はそこのジェットコースターにバディと1回、他に来ていた派遣生と1回、計2回乗りました。日本のジェットコースターとは違いスピードがとても速かったです。海では、波に向かって走ってみたり、海藻で遊んでみたり、砂に埋れてみたりしてたくさん遊びました。

僕がこの研修で感じたことは日本と比べてとてもフレンドリーな人が多いということです。アメリカの学校のバディの友達とかが僕に積極的に話しかけてくれて、とても仲良しになりました。「～っていうゲーム知ってる？」と聞かれたときはとても嬉しかったです。日本語の授業でも一緒になったりもしていろんなことを話しました。アメリカ人の人たちとコミュニケーションが取れて良かったです。

この事業に参加してみて、将来どのような道に進むのかどのような仕事に就くのかとか考える上で世界が広がったと思いました。これからも、英語の勉強をおろそかにせず今よりもっと喋れるようになりたいと思いました。このアメリカに行ったことは絶対に忘れない大切な思い出になったと思いました。この様な貴重な経験をさせていただいたことに大変感謝しております。本当にありがとうございました。

Thank you very much.

パロアルト派遣を通じて感じたこと

土浦第六中学校 竹澤 ななみ

私はこのパロアルト派遣を通じて感じたこと、驚いたことや学んだことがたくさんあります。

出発前や飛行機の中では「本当に私が行っていいのかな」「英語話せるかな」「アメリカの学校はどんな感じかな」など、いろいろな不安が巡り緊張していましたが、ついにアメリカに到着し、いよいよアメリカでの生活だということを考えて胸が高鳴り、あっという間に不安は吹き飛びました。歓迎パーティーではバディたちが外で「Welcome to Palo Alto!」と書かれた旗のようなものを広げて歓迎してくれたので、感動しました。そこで初めてバディとホストファミリーに出会い、優しく迎え入れてくださったのでとても安心しました。

アメリカに来て最初に感じたことは、日本とは比べものにならないくらいいろいろなものの規模が大きいことです。道路、家、食べ物、飲み物など、とにかく何でも大きく感じました。話では聞いていましたが、実際に目にするると迫力がありました。

私がとても印象深く残っているのは、学校です。アメリカの学校は制服が無く皆私服で、ピアスをしたり、休み時間では持参のお菓子を食べたりと日本の学校よりも圧倒的に自由度が高かったので少し不安でした。そんな不安が募る中、いろいろな人が私に話しかけてくれました。私が英語をうまく聞き取れなくても、優しく分かりやすいように話してくれました。ここで改めてアメリカ人はフレンドリーで優しい人が多いんだな、と実感しました。

しかし、やはり言葉の壁を越えることは容易ではありませんでした。初めて現地の英語に触れ、日常生活で使うことはないだろうと思っていた「英語を聞き取る力」と「英語を話す力」が必要とされ終始とても不安でした。寧ろその心配しかしていませんでした。生活には慣れてきたものの、自分の思いを英語で伝えるということがどうしても難しくてうまく伝わらないこともあったし、英語を完璧に聞き取れるようになったわけではないので、内容がよく理解できないということも多々ありました。それでもアメリカの方は笑顔で優しく接してくれたので、嬉しさとしんじけな気持ちでいっぱいでした。

このように、いろいろなことを体験しながら学んだ充実した10日間は本当にあっという間に過ぎ去り、バディとホストファミリーとの別れの日には寂しい気持ちでいっぱい、バスを走りながら見送ってくれたバディたちの姿を見て、堪えていたはずの涙が溢れ出してしまいました。

今回の派遣で、本当に様々な貴重な経験ができたことを私はとても光栄に思っています。私はもともと内気な性格で何事にも消極的だったのですが、この派遣をきっかけに少しでも明るくなればいいなあと願っています。言葉の壁という反省を生かし、英語をもっとたくさん勉強して将来再びアメリカに戻れることを目標にして生きていきたいと思えます。アメリカだけでなく、他の国にもそのうち足を運びたいです。願わくは、将来英語を生かした職業に就きたい！

最後になりますが、応援してくださった家族や市役所の方々、先生方、学校の人達にはとても感謝しています。この経験と思い出は絶対に忘れられないものとして深く刻まれています。これからもずっと忘れられないと思えます。

そして、バディ、ホストファミリー、パロアルトの方々、最高の思い出をありがとう！

本当に、本当にありがとうございました。

パロアルト派遣を通じて感じたこと

都和中学校 齊藤 優翔

僕は、今回のパロアルト派遣を通して初めて日本以外の文化にふれ、たくさんの経験することができました。僕がこの事業に参加した理由は、アメリカなど国外に出て生活することは貴重な体験になり、何より家族に勧められたので興味を持ち行ってみたいと思ったからです。初めてのホームステイはとても緊張しました。緊張していた僕にホストファミリーは笑顔で優しく接してくれました。初めはなかなか通じなかった英語でしたが徐々に通じるようになり英語での会話も増え会話をするのが楽しくなっていました。自分の英語力を知るきっかけにもなり勉強にもなりました。

J L S 中学校では日本の中学校との違いに驚きの連続でした。授業はパソコンを使用し生徒達はスラスラと文字を入力していて慣れているのが印象的でした。また友達同士でおやつや昼食を食べたり、学校内で携帯を使用していました。バディが日本の中学校に来たら J L S 中学校との違いに驚くだろうなあ…と思いました。J L S 中学校の生徒達が日本から来た僕たちのために歓迎パーティーをしてくれました。みんなフレンドリーでたくさんの生徒達と会話ができすぐに仲良くなれました。自分の英語がなかなか通じない時に身振り手振りをしてくれたり、ゆっくりと話してくれたり、日本語で話してくれたり、通訳してくれた生徒がいてとても助かりました。上手な発音ができなくてもアイコンタクトしながら話せば、だいたい理解してもらえることができました。

アメリカ、パロアルトはもとより海外に行くこと自体初めてでした。出発の日が近づくにつれて、楽しみに思ったり、不安になったりしました。僕が楽しく生活できたのはホストファミリーのおかげです。色々な場所に連れていってくれたり、何より僕がアメリカで楽しい日々を過ごせるような環境を作ってくれました。ホストファミリーには心から感謝します。アメリカでの11日間は僕にとって一生の最高の思い出となりました。今回のような、素晴らしい国際交流を通して、今後もたくさんの中学生が、日本とは違う文化や人々に触れ合う機会が増えるといいなと思いました。もっともっと多くの国に出かけていき色々な面で、自分を成長させていきたいです。

最後にこのような素晴らしい経験をする機会を与えてくださった土浦市長さんをはじめ、土浦市国際交流協会の皆さま、土浦市役所の皆さま、パロアルト市の皆さま、先生方、その他この国際交流事業に携わってくださったすべての方々に感謝します。

パロアルト派遣を通じて感じたこと

都和中学校 内田 歩乃樺

私がなぜアメリカパロアルト派遣に興味を持ったかというそれは父の影響が一番大きいです。父が会社の研修でアメリカに派遣され、アメリカの自慢話を聞かされ続け、そんなに楽しく、面白いところならば、「私も行ってみたい」と思ったのが最初のキッカケでした。

成田空港からサンフランシスコ国際空港に到着した私は、入国審査官から、「Go Home」「Go Japan」と入国を拒否されました。私は、どうしてよいかわからず、泣きたい気持ちと不安で一杯でした。そこに、引率の先生が助けに来て下さり、なんとか入国を許されました。本当に言葉が通じない恐ろしさを肌で感じました。

ホストファミリーとは、lineを通じてコミュニケーションを事前にとっていました。しかし、いざ目の前にすると、緊張でうまくコミュニケーションをとることができませんでした。しかし、そんな心配は必要ありませんでした。ホストファミリーは、温かく迎えてくれて、とても親切にしてくれました。

ホストの家には、テレビがなくオセロやパズルをして遊びました。言葉は、なかなか通じませんでした。知っている単語やジェスチャーで、コミュニケーションを図りました。慣れてくると、少しずつ会話が聞き取れるようになり、話すことへの不安がなくなりました。バディも言葉が通じないというもどかしさは、自分と同じだと思い、とにかく積極的に話すよう心掛けました。

アメリカの中学校は、日本の中学校と違う点が多くありました。アメリカの授業は、1時間1時間ごとに教室を変えるため、自分のクラスがないということです。自分のクラスがないため、荷物を置くスペースがないので外にあるロッカーに入れておくこと。そして、一番驚いたことは、「規則がない」ことです。制服もない、携帯も自由に使い、お菓子も自由に食べていました。髪型も服装も自由。正直、違和感を感じてしまいました。日本では、規律が厳しいので、アメリカのような自由なスタイルになかなか溶け込めませんでした。しかし、1日1日経過していく中で、私は、少しずつ受け入れることができるようになりました。

パロアルトでのホームステイは、私にとって非常に貴重な体験でした。アメリカの文化・人種に触れることができたことで、前よりも世界に興味を持つことができました。

最後に、このような素晴らしい体験をさせて下さったホストファミリー、パロアルトの方々、土浦市役所の方々、両親、そして15人の仲間達に感謝します。ありがとうございました。

この経験をこれからの将来に活かしていきたいと思います。

パロアルト派遣を通じて感じたこと

新治学園義務教育学校 来栖 智也

私にとって、パロアルトの10日間は驚きの連続でした。言語はもちろん、街並みや生活スタイルなど、たくさんのことが日本とは違いました。その中でも特に驚いたところは学校です。

パロアルトの学校は、授業は毎回それぞれの教科の先生の部屋に移動して受けます。その部屋は、教科の特性に応じて、生徒と生徒の机が対面式の教室もあれば、ホワイトボードに向かって半円状に並んでいる教室もあり、様々な形態をとっています。また、日本の学校ならば、クラスがありクラス単位で決まった科目の授業を受けるところですが、パロアルトの中学校では、クラスやホームルームはなく、一人ひとりが授業を選択することができるように、授業の科目ごとに違う友達と授業を受けるということに驚きました。更に、日本の中学校ではありえないピアスをしていたり、髪を染めていたりする生徒がいても全く問題ではありませんでした。私はこのような環境で生活することによって、日本とは異なる自己選択・自己責任の精神が生まれるのかも知れないと思いました。

私はこのパロアルト派遣に「英語でコミュニケーションをとる」という目標を持って臨みました。パロアルトの人たちは私が日本から来たこと、あまり英語が喋れないことを話すと、「it is no problem」「welcome to the united states」「oh, let's see KONNITIWA?」などと言って気さくに話しかけてくれたことがとてもうれしかったです。しかし、はじめは何を言っているのかよくわからなくて、相手を困らせてしまうことが多くありました。そんな時、ホストファザーが「you don't need to use difficult English・ムズカシイ エイゴ ヒツヨウナイ デス」と話してくれ、少し気が楽になりました。また、パロアルトの皆さんがあきらめずに何度も話しかけてくれたおかげで4日目ぐらいから英語に慣れ、簡単な英語で何となくコミュニケーションが取れるようになってきました。実際、パロアルトの中学生が友達同士で会話をしている時、私が中学校で習った文法が多く使われており、とても驚きました。

私はこのパロアルト派遣を通じて、2つのことを強く感じています。1つは、英語についてです。派遣前は不安だった英語が徐々にわかるようになって、片言でも意思疎通ができたことで、これまで学校で習ってきた英語が無駄ではなかったということです。それと同時に、自分の英語力がまだまだであるということも実感しました。これからますます英語の学習に力を入れていきたいと思います。もう1つは、世界観の広がりです。パロアルトに行く前は、アメリカはとても遠い存在だという意識がありました。でも、実際の生活は、文化の違いはあるものの、日々の生活は日本にいるときと同じでした。このことで、遠い異国でも適応できるという自信が持て、派遣前とは違った世界観を持つことができたような気がします。私は今、進路について明確な考えは持っていませんが、世界を意識することのできる人間になりたいと思いました。

パロアルト派遣を通じて感じたこと

新治学園義務教育学校 青山 朋未

私は、このパロアルト派遣を通じてたくさんのことを学び、感じる事ができました。

パロアルトに着くと、JLS 中学校で歓迎パーティーがありました。バスで中学校へ向かうとき、学校の周りで私たちのバディが日本の国旗や Welcome to Palo Alto! と書かれたフラグを持って歓迎してくれました。私は、現地に着いてもなかなか実感がわかかなかったけれどそれを見て、私のバディはどこだろう、もうアメリカでの暮らしが始まるんだ、と思い急に緊張してきました。学校に着いてバディの家族に会うと笑顔で Hi! とあいさつしてくれて、少し緊張がほどけました。

アメリカの学校は教科書で学んだ通りでした。生徒が先生の教室に移動したり廊下には自分用のロッカーがありました。しかし、教科書には載ってなく、驚くことがありました。それは、校則についてです。アメリカの中学校では、髪を染めたりお菓子やスマホを持ってきたりすることが許されていてとても自由な感じがしました。また、中学校を歩いていると「日本からきたの？よろしくね!」とたくさんの生徒が私に声をかけてくれて、とてもうれしかったです。

ホストデイではいろんなところへ連れていってくれました。はじめのころはバディとなかなか会話が續かなかったりアメリカでの暮らしに慣れなかったりして早く日本に帰りたいな、と思うことがありました。しかし、日に日にバディとも打ち解けあいお互いの学校や友達について話したり、クッキングナイトでは一緒においなりさんを作りました。おいなりさんを食べる時、ホストファミリーが日本語で「いただきます」と言ってくれたときは、感動しました。

バディとお別れするときは、とても悲しかったです。もちろん私のバディだけじゃなく、ホストファミリーやアメリカの中学校でできた友達と今日で最後なんだな、と思うと涙が出そうでした。なので大人になったらまた Palo Alto に来ようと思いました。

最後に、今回この事業に参加したことはとても良い経験になり、これからの将来に生かしていきたいと思います。このような貴重な体験をさせてくださいました、関係者の皆様、ホストファミリー、本当にありがとうございました。

土浦市中学生交換交流事業 研修だより From USA

～成田空港にて～

まだ実感がない。
アメリカを早く感じたい。

大西 治嘉

待ちに待った出発の日になって
実感が湧いた！
はやくバディに
会いたい(´へωへ*)

藤原 彩羽

いよいよ出発！
緊張する～～
エミーちゃん待っててねー

東原 羽杏

待ちに待った出発！！
ちゃんと英語が伝わるか心配だけ
ど楽しむぞー！！

市川 瑞規

ついにこの日が来てしまった！
少し不安です。

武井 柊磨

ついに、出発だ～！！
しっかり話せるか
不安だけど頑張るぞ！

山口 心奈

ドキドキとワクワクが
止まらない！！
もうすぐアメリカか～
実感がわからないなあ～

小澤 翔瑛

もう日本出発するのか～？
まだ実感わからないけど、
楽しい10日間にしよう！

田村 美咲

土浦市中学生交換交流事業 研修だより From USA

～成田空港にて～

ついに始まる10日間！
心配なこともたくさんあるけど
仲間と協力して、頑張るぞ！

久保田 一牙

いよいよ初めての海外…飛行機…
まだ実感がわかない。
本場で英語話すのって
どんなだろう…。

中村 真緒

大丈夫かな？上手く話せるかな？

渡邊 創太

いよいよ初渡米。ぜんぜん実感が
わかないし、不安と緊張で複雑な
気持ちでいっぱいなのと同時に
楽しみでもあります。
事故が起きませんように。

竹澤 ななみ

成田に到着！
わくわくしてきた！！

齊藤 優翔

いよいよ出発！
緊張するけど頑張ろう！
バディに会えるのが楽しみ！

内田 歩乃樺

今からアメリカいくぞー！
バディはどんな人なのかな？
早く会いたいな～

来栖 智也

もう出発！？
全く実感がわかない。
行ってきます！

青山 朋未

土浦市中学生交換交流事業 研修だより From USA

～サンフランシスコ到着～

でかすぎる！
景観が日本とは違いすぎる。
生活が楽しみだ

大西 治嘉

長い飛行機の旅を終えて
本土が見えた！
感動でいっぱい(*^_^*)

藤原 彩羽

やっと到着！
飛行機長かったー
ワクワクでいっぱいだー

東原 羽杏

アメリカ到着！！
もう少しでバディと会える！！
楽しみだー！！

市川 瑞規

アスファルトが多い！
はやく自然に触れてみたい！

武井 柊磨

やっとアメリカ着いた～
不安もあるけどすごい楽しみ！！

山口 心奈

よし！
いっぱい英語話して、
英語をマスターしてやる！！

小澤 翔瑛

ついにアメリカに着いた！
早くホストファミリーに
会いたいな。

田村 美咲

土浦市中学生交換交流事業 研修だより From USA

～サンフランシスコ到着～

時差ボケがすごいけど、
映画みたいな景色に感動！
楽しむぞー！

久保田 一牙

わぁー！
街並みが映画のようで夢みたい！
もう後戻りできない～
さぁ始まるぞ。

中村 真緒

やったーアメリカ到着！
アメリカ生活楽しみだ！！

渡邊 創太

アメリカ…ついに来てしまった。
無事に着いて良かった。もう既に
日本と雰囲気が違って驚き…
うまくコミュニケーションできる
かわからないけど、早くバディに
会いたい～

竹澤 ななみ

Theアメリカって感じ。
楽しむぞ！！

齊藤 優翔

無事にアメリカ着いたー
これからのアメリカでの
生活が楽しみ

内田 歩乃樺

ワクワクして飛行機で
全然寝られなかった、
案内も店の看板も全部英語！！
本当にやっていけるのか不安

来栖 智也

やっと着いたー！！
はやくバディに会いたい！

青山 朋未

土浦市中学生交換交流事業 研修だより From USA

～前半を終えて～

え、もう？
楽しすぎる、終わってほしくない。

大西 治嘉

もう半分 Σ(・ω・;)||
残り半分も楽しむぞー！

藤原 彩羽

毎日が楽しすぎて
あっという間だー
あと半分も思いっきり楽しもう！

東原 羽杏

時間経つのが早すぎて、
あっという間だ！
残り半分楽しむぞ！！

市川 瑞規

もう半分？早いなー
日本に帰りたくなくなってきた！

武井 柊磨

思ったより半分って
すごい早い～
残り半分も楽しむぞ～！！

山口 心奈

楽しくて日本に帰りたくないなー
あともう少し、
思いっきり楽しもう！！

小澤 翔瑛

時間が経つの早すぎる！
アメリカは日本と
違うところがあって面白い。
残り半分も楽しむぞ！

田村 美咲

土浦市中学生交換交流事業 研修だより From USA

～前半を終えて～

もう半分！？早すぎる！！
後悔しないようにいろいろトライ
するぞー！アメリカの学校広
ぎ！迷子になりそう

久保田 一牙

あと半分!?時間経つの早過ぎる。
もう少しでアメリカ人になりそう
(笑)
毎日が楽しい！中学校最高！！

中村 真緒

もう半分過ぎたのか～
早すぎる！！

渡邊 創太

もう前半終了…？早すぎる…
やっとアメリカの生活に
慣れてきたというのに…。
この調子で後半も楽しみたい！！

竹澤 ななみ

なんかあっという間に
前半終了、、、
後半も楽しむぞ！！

齊藤 優翔

もう前半終わっちゃったのー
早いー
残りの生活も頑張ろう！

内田 歩乃樺

嘘！もう半分も過ぎちゃったの。
やっと英語に慣れてきたばかりな
のに？毎日が新鮮なことばかり、
あと半分も全力で頑張ろう！！

来栖 智也

あと半分しか残ってないの！？
時間たつの早すぎー。
残りの日もめっちゃ楽しも！

青山 朋未

土浦市中学生交換交流事業 研修だより From USA

～ヨセミテ国立公園見学～

自然の景観が綺麗で、
日本では絶対にはない景色だ！

大西 治嘉

日本にはないスケールの大きさに
びっくり

藤原 彩羽

滝が凄く大きくて、
迫力がすごい！
すごく綺麗で、自然がいっぱい！
もう一回見に行きたいなー

東原 羽杏

滝も岩も木も、
全部大きすぎてびっくりした！
もう1回見に行きたいなー

市川 瑞規

全部でかい！
木も滝も！リスも見た！
大自然だ。

武井 柊磨

いろいろな滝があって
めっちゃきれい！
みんなと仲良くなれて楽しい～

山口 心奈

日本では絶対に味わえない自然を
味わえてとても嬉しい！
派遣生ともたくさん話せて
良かった！

小澤 翔瑛

大自然のなかでみる
迫力ある滝がきれいだった！

田村 美咲

土浦市中学生交換交流事業 研修だより From USA

～ヨセミテ国立公園見学～

さすがアメリカっていうような
壮大な景色に感動！
空気もおいしいし
文句の付け所がない！

久保田 一牙

アメリカの大自然！日本とは
違ったスケールに圧倒された。
地球よアリガトウ！という感じ。
博物館のスタッフが
フレンドリーで面白かったな～

中村 真緒

すげえ～
自然がダイナミックすぎる！

渡邊 創太

天気が不安だったけど見られて
よかった！！景色綺麗すぎる！！
滝がいっぱいあって
名前が覚えられない！！

竹澤 ななみ

リスが可愛かった。
景色がもう... 最高！！！！

齊藤 優翔

自然がいっぱいできれいで
もうサイコー
また行きたいな

内田 歩乃樺

ヨセミテの滝
ハーブドーム
迫力満点の大自然
満喫できてよかったー

来栖 智也

すっごい広い！去年の先輩たちの
分まで楽しまなきゃ！

青山 朋未

土浦市中学生交換交流事業 研修だより From USA

～ホームステイを終えて～

ホストファミリーとの
別れが辛い。
日本でまた会えることを願いたい

大西 治嘉

楽しかったホームステイも今日で
終わり(´A`)。グスン
6月に日本で待ってるよ(^O^)!

藤原 彩羽

早すぎるよー！
エミーちゃんと
もっと喋りたかったなー
早く6月になりますように！
待ってるね！

東原 羽杏

早すぎる！！
緊張しすぎてガタガタだったけど、
最高に楽しかった！！
早く6月にならないかなー。

市川 瑞規

ホストファミリーとお別れ…
すごく楽しくて充実してた！
まだここにいたかった…

武井 柊磨

滞在 10 日間早かった～
すごいいい経験になった！！
本当に楽しかった～

山口 心奈

長く短いこの 11 日間を終えて、
たくさんの思い出ができました！
Owen 一家ありがとう！！

小澤 翔瑛

お別れしたくないけど、
ホストファミリーと過ごす
一日一日が楽しかった！
今までありがとう。

田村 美咲

土浦市中学生交換交流事業 研修だより From USA

～ホームステイを終えて～

たくさん優しくしてもらったから、
悲しすぎる！一つ一つの会話が
思い出でいっぱいです！
本当にありがとうございました！

久保田 一牙

ホストファミリーや、友達に心から
感謝してる。毎日が充実しすぎた。
みんな本当にありがとう！！
でもまだ帰りたくない…。

中村 真緒

もう終わったんだな、
またアメリカに行きたい～

渡邊 創太

もうお別れ...10日間早かった...。優
しく迎え入れてくださって本当に
嬉しかったです！良い思い出をあ
りがとう！！

竹澤 ななみ

ホストファミリーと
もっとしゃべりたかったなあ。
たくさんの思い出をありがとう。

齊藤 優翔

ほんとに早かったなあー
もっとホストファミリーと
一緒にいたかった！
一日一日がとても充実していて
楽しかった！

内田 歩乃樺

ほんとにみんな優しすぎ！！
もう家に帰りたくない。
永住したい

来栖 智也

悲しいよー。ー。
6月が待ち遠しい！
ホストファミリーのみんな
本当にありがとう！
またパロアルトに行くよ！

青山 朋未

土浦市中学生交換交流事業 研修だより From USA

～日本に帰国して～

いつもの生活に戻るのかー、
これからこの派遣で感じた事を
どんどん広げていきたいです。

大西 治嘉

またまた長い飛行機の旅を終えて
我が国日本に帰って来たぞー
(*^_^*)やっぱり日本のお寿司は
美味しい！

藤原 彩羽

ただいま日本！！
もっとアメリカ居たかったなー
久しぶりの日本食が美味しいー
もっと勉強して、
またアメリカいきたい！

東原 羽杏

久しぶりの日本！！
もっともっとアメリカにいたかっ
たなあー
日本食が無性に美味しく感じた！
もっともっと英語喋れるようにし
てまたアメリカ行きたいなー！

市川 瑞規

帰ってきちゃった…
なんか時差ボケすごいなー
右ハンドルに違和感。
楽しかった！

武井 柊磨

日本だ～
なんかすごい安心する～
でも、アメリカ楽しかった！！

山口 心奈

嬉しいような悲しいような
微妙な気持ちで
日本に帰ってきた実感が
わからないなあ～

小澤 翔瑛

アメリカの生活が恋しい。
家族に久しぶりに会えて
安心した！

田村 美咲

土浦市中学生交換交流事業 研修だより From USA

～日本に帰国して～

いろいろなこと経験したけど
一つとしていないことなんて
なかった！いつか大人になって
成長した姿を見てもらいたい！
本当にありがとうございました！

久保田 一牙

帰ってきちゃったよー(☹)
夢から覚めた感じ…
本当に夢のようだった。
早く日本の友達に話したい！
また絶対アメリカに行く！！
とりあえず、お寿司食べたい！

中村 真緒

帰ってきてしまった。
まだアメリカに居たかったなあ

渡邊 創太

行きよりも飛行機が長く感じた。
ただいま我が祖国。アメリカも凄く
楽しかったけど、やっぱり日本が
落ち着く。
本当にあっという間でした。
貴重な経験をありがとう。

竹澤 ななみ

いい経験をしたと心から思った。
この経験を活かし
今後につなげていきたいと思った。

齊藤 優翔

ただいまー日本！
無事に日本について
とてもよかった！
やっぱり、日本は落ち着く！
10日間本当に楽しかったです。
本当にありがとうございました！

内田 歩乃樺

もう日本についちゃった…
もっとアメリカにいたかったな～
また行きたいな。
日本に来てくれたときには
最高のおもてなしをしなければ…

来栖 智也

ただいま日本！
アメリカが恋しいよ。
でもやっぱり日本は落ち着く。

青山 朋未

現在の情報化社会では、日本を含む世界中の多くの人達が i- phone や i- pad を使い、google で検索や翻訳をし、twitter や facebook で情報を発信・共有しています。そんな世界の IT 産業を牽引している“超一流企業”が、カリフォルニア州シリコンバレー、パロアルト市周辺を北限に点在しています。有名なスタンフォード大学やアップル、グーグル本社が揃っているとあって、「そこではどのような教育で独創性を育んでるんだろう？是非、見てみたい。」そんな想いをもって、今回の研修に参加しました。私にとっては4回目の海外交換交流でしたが、今までの3回は夏休み中の訪問だったので、学期中に訪問して実際に授業風景を見るのは、今回が初めてでした。そして、その感想は…「驚きの連続」でした。

生徒達を受け入れてくれた JLS, Greene Middle School は、いずれも青々とした緑の芝生の運動場がある広大な敷地に平屋建ての校舎が点在する、一流会社の研究所のような豪華なたたずまいでした。見学が許可された日本語クラスの授業では、生徒が日本語で進行するなか、i- pad を無線ランでつないで日本に関する早押しクイズを実施するなど、流石アップルのお膝元といった授業展開でした。クッキーのデコレートをして競った後、最終的には食べてしまったり、研修生達の学校紹介に関するクイズの商品がお菓子だったり（勿論もらったら食べて良い）と、日本では考えられないような場面もたくさんありました。（生徒の話によると、数学の授業では繰り上がり・繰り下がりの計算の仕方が違っていたり、日本ではまだ習っていない内容を扱っていたりして、とても難しかったそうです。）授業中の良い発言を褒めるのと同時に、ふざけた発言を聞き流さずに何がいけなかったのかを説明する先生の姿に、論理性や合理性を育もうとする姿勢が感じられました。その他、日本とは大きく異なった点を列記します。

- ・制服はなく、思い思いの服装で登校（中には短パン・サンダルの生徒も！）
- ・アクセサリ、髪型、ネイルに加えて、授業中のガム等もフリー
- ・必修と選択科目を合わせて7教科しか受けない
- ・自分の教室が無く、授業ごとに移動する。授業ごとにメンバーが替わるため、いわゆるクラスメイトは居ない（逆に、たくさんの生徒とふれ合えるとも言える）
- ・5分の休み時間に1,000人以上の生徒が移動するので祭りのように賑わう。その後、静寂
- ・授業から離脱してウロウロする生徒もそのまま放置
- ・2時間目の後の20分ほどのブランチには売店に群がり、スナック菓子を買って食べ歩く姿
- ・売店の列に割り込んで警備員に怒鳴られ、罰としてその場に立たされている生徒
- ・ブランチ（業間休み）中に日本語授業の教員は、次の授業のために学校を移動
- ・ランチタイムには通路に座り込んでお弁当を開く姿（一人で食べている生徒も多く見られた）



Hour	Time	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY
1	8:15-9:10	1	1	6	1	1
2	9:15-10:15	2	2	7	2	2
	Brunch 10:15-10:25	Brunch	Brunch	Brunch	Brunch	Brunch
3	10:30-11:25	3	7	3	5	4
4	11:30-12:25	4	3	4	6	5
	Lunch 12:25-1:00	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch
5	1:05-2:00	5	4	1:05-1:45	7	6
6	2:05-3:00	6	5	Wednesday Instructional Period	3	7
	T.E.A.M. 3:00-3:05	T.E.A.M.	T.E.A.M.		T.E.A.M.	T.E.A.M.



空き時間に訪問した Gunn High School ではゲストとして授業に参加し、高校生達の生の声が聞けました。カリフォルニア州の高校でトップ6（公立高ではトップ）なことへの誇りと苦勞、1人1人の将来に関する具体的なプラン、大学入試で推薦状を得るためにはボランティア活動を100時間以上も行わなければならないことなど、様々な話題で1時間みっちり話すことができました。日本の同世代から見ると、マイカーで通学しピアスに化粧…と自由で羨ましいことばかりに感じられる彼らも、また同じように進路に悩みながら一生懸命将来を模索しているんだ…と気付くと、最初はいかつくて大人びて見えた彼らが、次第に年相応で可愛い生徒達に感じられてきました。

私の研修課題だった「どのような教育で独創性を育てるんだろう？」への答えは、学校だけでなく家庭や地域の教育など、社会全体を通して育てているのだらうと思います。日本とは異なる自由な環境故に、幼い頃から日常的に自己決定が必要とされます。同時に、体験を通して自己責任を学ぶことが、自立心を育てているのではないかと思います。以前読んだ本に、「アメリカでは機会の平等が求められ、日本では結果の平等が求められる」という一節がありました。チャンスをモノにできるかどうかは自分次第だ、という考え方はとても合理的で多民族国家ならではのものだと思います。今回関わった方々の中にも、アイルランド系、ロシア系、インド系、ラテン系、韓国系、中国系など、様々な文化的背景をもった人たちがいました。そんな多様な文化が混じり合っ一緒に暮らす為の、共通の価値観が「機会の平等」であり「自己責任」なのだと思います。

日米の教育の違いは民族性に基づいているもので、学校教育だけを真似ても独創性にはつながらないと感じました。ほぼ単一民族の日本では「受け身な生活で主体性や独創性が育たない」と言われますが、代わりに協調性が育まれるという長所もあります。今回の交流を通して、改めて日本の教育の良さにも気付くことができました。日米双方の良さを取り入れながら、今後も指導にあたっていきたいと思います。

研修生の皆さん。渡米前は「外国への憧れ」という漠然とした思いだったのが、もっと話せるように、聞けるように、伝えられるように…と具体的になったことでしょうか。また、異文化を知って自国の文化を改めて見直す必要があることにも気付いたことでしょうか。世界に出てみると、意外と自国や地元のことを知らないことに気付くものです。時間をかけて学び、教養を高め、また海外に出て活躍する人物に成長してほしいと思います。皆さんの今後の活躍を期待しています。

最後に、姉妹都市締結10周年という節目の年に土浦市交換交流事業に参加させていただき、研修生と共に充実した日々を過ごさせていただきました。多方面でのご支援、ご協力をいただきましたことに深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。



引率者より

土浦市市民生活部市民活動課 羽生 和香子

2019年は、パロアルト市と土浦市が姉妹都市を締結して10周年の節目となる年です。3月16日、25回目となる派遣団が、カリフォルニア州パロアルト市へ向けて出発しました。16名の派遣生は、事前研修の時からとても意欲的な生徒たちでした。空港からパロアルトに向かうバスの中で、本当は緊張や不安も大きかったでしょうに、みんなでポジティブに頑張ろう！と気持ちを高めあっていて、頼もしく思ったことを覚えています。

パロアルトに到着すると、バディやホストファミリーのみなさんが満面の笑顔で出迎えてくださいました。「わあ！待っていてくれた！」感激してバスを降りると、生徒たちはバディに会えた嬉しさに、あっという間に打ち解け合い、ウェルカムパーティーの会場には笑顔が溢れました。カリフォルニアの抜けるような青空も、11日間は素晴らしい日々になることを祝福してくれているようでした。

アメリカでの生活は、ホームステイ、現地の学校体験など、派遣生にとってすべてが初めてで、刺激的だったことでしょう。派遣生たちは、元気いっぱいの笑顔で新しいことにチャレンジし、日を追うごとに逞しく積極的になっていきました。あっという間に現地の生活に馴染み、学校で堂々とプレゼンテーションを行い、バディや友達との会話を楽しもうとする姿には、ただただ驚くばかりで、私まで嬉しく誇らしい気持ちになりました。

今回、私自身初めて引率としてパロアルトを訪問しました。シリコンバレーに位置し、最先端のITが身近にある生活、綺麗な住宅が並ぶ美しい街並みといった素晴らしい環境もさることながら、一番印象深かったのは、フレンドリーで優しく、聡明で寛容なパロアルトの人々そのものでした。ホストファミリーがディナーに招待してくださった際、どのご家庭でも、ゲストの派遣生に我が子のような愛情を注いでくれているのを感じました。そして派遣生の性格や振る舞いから良い所をたくさん見つけ、「〇〇が来てくれてから、うちはこんなふうに変ったの。最高だわ！」といった様子で話をしてくれるのです。個性を尊重し伸ばすというのはまさにこういうことなのだな、と実感しました。また、ホストファミリーのみなさんが中心となって、派遣生たちとバディの仲が深まるよう、レジャーに連れていってくれたり、ピンゴナイトを開催してくれたり、様々に楽しませてくれました。みんなが温かく受け入れられているという安堵と幸福に、感謝の思いでいっぱいになりました。

11日間は本当にあっという間でしたが、派遣生たちは異文化に触れ、コミュニケーションの大切さや楽しさを学ぶという、とても密度の濃い時間を過ごしました。滞在中には、心細さや、言葉がうまく伝えられないもどかしさ、予想と違って驚いたことなどもあったことでしょう。しかし、そういった自分に向き合ったことで、みなさんはひとまわりもふたまわりも成長したに違いありません。なにより、自ら勇気を出して世界に一步を踏み出し、仲間とともに精一杯頑張り、人々の温かさに触れたかけがえない経験は、派遣生一人ひとりの大きな自信となって、これからの人生を豊かにしてくれることでしょう。みなさんが、この経験を糧として、将来の夢に向け羽ばたいていくことを願っています。

最後になりましたが、今回の事業の実施にあたり、参加を後押しし、絶え間ない応援をしてくださった保護者の皆様をはじめ、多大なるご支援・ご協力をいただきましたすべての関係者の皆様方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

受入れの部

2019年6月土浦市中学生交換交流事業(土浦市受入れ) 参加者名簿

土浦市側		パロアルト市側	
氏名	学校名	氏名	学校名
大西 治嘉	土浦第一中学校	Ezra Furtado Tiwari	J L S 中学校 7年生
藤原 彩羽	土浦第一中学校	Lita Sone	J L S 中学校 8年生
東原 羽杏	土浦第二中学校	Emmy Robinson	J L S 中学校 7年生
市川 瑞規	土浦第二中学校	Karis Lau	J L S 中学校 7年生
武井 柊磨	土浦第三中学校	Matteo Lisi	J L S 中学校 7年生
山口 心奈	土浦第三中学校	Palina Kuzmina	J L S 中学校 8年生
小澤 翔瑛	土浦第四中学校	Owen Bittinger	Greene 中学校 8年生
田村 美咲	土浦第四中学校	Kaila Ni	Greene 中学校 8年生
久保田 一冴	土浦第五中学校	Nathaniel Donaker	J L S 中学校 7年生
中村 真緒	土浦第五中学校	Jasmine Wang	J L S 中学校 8年生
渡邊 創太	土浦第六中学校	Austin Eng	Greene 中学校 7年生
竹澤 ななみ	土浦第六中学校	Caitlyn Oda	J L S 中学校 8年生
齊藤 優翔	都和中学校	Giordano Rischmoller	J L S 中学校 8年生
内田 歩乃樺	都和中学校	Alexandra Filippova	Greene 中学校 7年生
来栖 智也	新治学園義務教育学校	Franklin Ballantine	Greene 中学校 7年生
青山 朋未	新治学園義務教育学校	Kaylee Wong	J L S 中学校 8年生

2. パロアルト市側引率者

氏名	備考
Naoko Fujii	ネイバースアブロード会員 Austin Eng 母
Diana Nemet	ネイバースアブロード会員
Sharon Robinson	ネイバースアブロード会員 Emmy Robinson 母
Justin Wang	ネイバースアブロード会員 Jasmine Wang 父

受入れ日程

日付	主なプログラム
令和元年 6月6日(木)	東京見学 ※パロアルト市参加者のみ (江戸東京博物館、東京スカイツリー、浅草)
	歓迎・交流パーティー 【会 場】 霞浦の湯 大ホール会議室 【時 間】 18時30分～20時00分
7日(金)	日光東照宮見学(パロアルト市参加者のみ)
8日(土)	ホストデイ(終日、ホストファミリーと共に)
9日(日)	ホストデイ(終日、ホストファミリーと共に)
10日(月)	【パロアルト市派遣生】 ホストと中学校体験 【パロアルト市引率者】 中学校訪問(土浦五中、土浦二中) ※土浦二中にて生徒と給食体験
11日(火)	【パロアルト市派遣生】 ホストと中学校体験 【パロアルト市引率者】 中学校訪問(土浦六中、土浦一中)
12日(水)	関西方面研修(京都、広島、姫路 ほか) ※パロアルト市参加者のみ
13日(木)	
14日(金)	
15日(土)	そば打ち体験(両市派遣生及び引率者) 【場 所】 小町の館 【時 間】 9時30分～12時30分 座禅・茶道体験(両市派遣生及び引率者) 【場 所】 向上庵 【時 間】 13時00分～15時30分
16日(日)	答礼パーティー 【会 場】 都和公民館 【時 間】 10時00分～12時00分 パーティー終了後、パロアルト市参加者は成田空港へ向けて出発

Our Adventures In Tsuchiura 土浦での冒険

To be perfectly honest, I was very nervous at first, wondering if I would be able to follow Japan's customs and be able to represent Palo Alto the best way I could. But all my worries died down as we landed at Narita airport. I was surprised at how hot it was, but each day passed by as we roamed around the busy streets of Tokyo, visited Asakusa, had a grand welcome from Tsuchiura, and learned a lot in the rainy Nikko.

(和訳)本当に正直なところ、当初は心配していました。日本の習慣に従うことができるのか、またパロアルト代表としてベストを尽くせるのかということ。しかし、成田空港に着いたら、心配していたことはすべて消え去りました。とても暑くて驚きましたが、賑やかな東京を歩き回り、浅草を訪れ、土浦で素晴らしい歓迎をしていただき、雨の日光では多くのことを学びながら一日一日が過ぎていきました。

The first few days went by so fast, it was already the the host days. These were personally my second most favorite memories as I went to Disney Sea and explored a bit of Tsuchiura. While DisneySea was fun and tiring, it was so exciting to learn small details about Japanese culture like going to the Ushiku Daibutsu and playing traditional Japanese instruments such as the shakuhachi and koto. Going into these days, I didn't know what to expect since I gave my host family a very hard time deciding what to do since all I ever said was, "Anything is fine with me. What would you like to do?". So being able to experience even the slightest bit of Tsuchiura and being able to connect more with my host family was very eye opening and fun for me.

(和訳)最初の2,3日はあっという間に過ぎ、ホストデイとなりました。個人的にはディズニーシーへ行き、土浦を少し探検したことは私の二番目にお気に入りの思い出となりました。ディズニーシーは楽しく、疲れもしましたが、牛久大仏へ行ったり、尺八や琴などの日本の伝統的な楽器を演奏したりして、日本文化を詳細に学ぶのはとてもワクワクすることでした。ホストデイを迎えるにあたり、当初何を期待すればよいのかわからなかったものですから、「私はどんなことでもよいですよ。ホストの皆さんは何がしたいのですか?」と言ってばかりで、ご家族には、どのように過ごすかを決めるのに大変な思いをさせていただきました。わずかばかりの時間でしたが土浦を散策し、ホストのご一家とつながることができたのは楽しいことでした。

Surprisingly, I was really excited for the school days. I find the Japanese school system so unique and amazing. I could wear a Japanese uniform, see what's different between American and Japanese schools, watch what clubs were like, and meet so many more people. And the school days were just as fun as I hoped. Everyone was nice and patient with me when I slipped up. I can not express how much fun I had in such a little amount of time. It also felt amazing giving a presentation on American schools thinking that I was able to teach all these people about my home, America. And while there were some moments that made me confused and uncertain, to me, those moments are one of the most special and funniest stories to remember.

(和訳)意外なことですが、学校訪問は本当にワクワクしました。日本の学校システムはユニークで素晴らしいと思います。制服を着て、日米の学校の違いを知り、クラブ活動を見学し、多くの学生と出会うことができました。学校生活は私が望んでいた通り楽しいものでした。皆さんよくしてくださり、私がうっかり間違えた時でも許してくれました。わずかな時間ではありましたが、どれほど楽しかったかを明確に言い表すことができません。私が自分の母国アメリカについて皆さんに伝えているのだ、と思いつつ、アメリカの学校について発表をするのはまた素晴らしいことでした。困ったり、また不安な瞬間であっても、忘れられない最も大切に楽しい思い出の一つです。

Kyoto, Hiroshima, and Himeji were all very intriguing places to visit. Each place had its own special history, elegance, and charm that contributes to Japan even today. In Kyoto, we were getting lost in the huge Nishiki Market and were wondering how to tie an obi correctly all while enjoying the unique foods Kyoto had to offer. At Hiroshima, it was sad, yet important to learn the truth during World War II. After looking through the Hiroshima Peace Memorial and Museum, I hope that we can continue to have this wonderful connection between America and Japan so that something like the bombing of Hiroshima never happens again. On the last day of our overnight trip, we visited Himeji castle. Himeji castle was spectacular and looking through it, it was even more amazing than I thought. After all that, I greatly appreciate and admire how Japan keeps its history well kept.

(和訳)京都、広島、姫路はどこもとても興味深いところでした。どの場所もそれぞれ特別な歴史があり、優雅さや魅力は今日までも日本に寄与しています。京都で独特の食べ物を楽しむ一方で、巨大な錦市場で迷子になったり、帯を正しく結ぶということに驚いたりしました。広島では、悲しいことですが、第二次世界大戦の真実を学習するのは大切なことでした。広島平和記念館での見学を通して、アメリカと日本のこのすばらしい関係が継続することを願います。そうすれば広島のようなことは決して再び起こらないでしょうから。旅行最終日には姫路城を訪れました。姫路城は壮観で、見学してみると思っていた以上に素晴らしいものでした。旅行を通して日本が歴史を立派に保存しているということを認識し、感銘を受けました。

In my opinion, the last two days were the saddest. We watched and learned how to make soba noodles and tried our best at zen meditation together. It was so interesting to me how in a Japanese tea ceremony, you respect the tea and the bowl. Every action seemed very important and it was exciting experiencing it with friends!

Throughout our trip, I experienced so many new things and the whole time I couldn't stop smiling and thinking about how lucky I am to be able to see these things. We ate so much great food that I want to try cooking more Japanese food at home, took in the beautiful, charming sights of Japan, and learned how to keep a conversation longer than I could have ever dreamed. On the day we left, we were all in tears to be leaving. But even so, I'm very glad that Palo Alto and Tsuchiura have this special bond that has connected us for 10 years. I can not thank our host families enough for taking care of us so well! I absolutely loved being in Tsuchiura and I definitely can not wait to visit again!

(和訳)私にとって最後の2日間で最も寂しいものでした。皆でそば打ちを習い、座禅ではベストを尽くしました。日本の茶道ではお茶とお茶碗に敬意を払うということがとても興味深いものでした。あらゆる所作がとても重要にみえて、友達と経験できたことはわくわくするものでした。

この研修を通じて、とても多くの新しいことを経験しました。又、滞在中ずっと笑顔が絶えることなく、このような経験ができて私はなんと幸運なのだろうと思っていました。美味しい食べ物もたくさんいただき、家でももっと和食を作ってみたくなりました。日本の美しく、魅力的な名所を訪れ、夢にもみなかったくらい長く会話する方法を学びました。旅立ちの日、お別れする時はみんな涙ぐんでいました。パロアルトと土浦が10年にも及ぶ特別な絆があるということがとても嬉しいです。ホストファミリーの皆さんには色々とお世話していただき、感謝の言葉もありません。土浦に滞在したことがとても嬉しく、再び訪れる日が待ちきれません！

パロアルト市引率者より

Trip Report – Palo Alto & Tsuchiura Exchange Program, 2019

Justin Wang

2019年 パロアルトー土浦交換交流事業報告

ジャスティン・ワン

Our cultural exchange program trip to Tsuchiura was remarkably different from just visiting Japan as a casual tourist. This began from our first full day in Japan, when we were received by representatives from the Tsuchiura municipal government who welcomed us in Tokyo and took us to tour the Tokyo Edo Museum, the Tokyo Skytree Tower, and the Asakusa Temple as a taste of some of Japan's offerings, followed by a welcome reception in the early evening to meet the Mayor of Tsuchiura, City Council representatives, and of course our host families. It was wonderful to have our itinerary and schedule arranged by our hosts each step of the way.

(和訳) 土浦への交換交流事業は、普通の観光客として日本を単に訪問するものとは明らかに異なっていました。日本での初日、東京で土浦市職員の出迎えを受けました。江戸東京博物館、東京スカイツリーを訪れ、浅草寺ではお賽銭を体験し、夕刻には歓迎パーティーで土浦市長、市議会議員の方々、そしてもちろんホストファミリーにお会いしました。土浦の皆さんが準備してくださったスケジュールは、すべての場面において素晴らしいものでした。

Visiting the local schools was an eye-opening experience. The schools were neat, well-maintained, and orderly. One interesting difference of the Japanese schools (from the American model) was that the same group of students were together in the same classroom section throughout the year, as opposed to switching randomly between different teachers. This helped the students get to know each other better.

(和訳) 地元の学校訪問では目を見張るような経験をしました。学校は清潔で、よく管理され、整頓されていました。(アメリカと比較して)日本の学校との興味深い違いは、アメリカでは教師の教室のもとへ学生が入れ替わるのに対し、日本の学生は一年を通して同じ教室で過ごすということです。学生同士が、お互いをより分かり合えるようになるのです。

Highlights of our group's trip to Kansai and beyond were unforgettable. It was a real treat to sample the various local food stuffs in the Nishiki Market in Kyoto unavailable at home, as well as finally see in person the timeless Himeji Castle and the Miyajima Torii gate that we often see in postcards and tourist brochures. At the Hiroshima Peace Museum, our group of normally chatty children fell silent when viewing the exhibits of children who perished in the atomic bombing of Hiroshima – as a reminder of the horrors of war and the importance of maintaining world peace.

(和訳) 研修の目玉であった関西及びその先の旅行は、忘れがたいものでした。母国では手に入らない食べ物を京都の錦市場で試し、また絵葉書や旅行ガイドに載っている悠久の姫路城や、宮島の鳥居を自らの目で見る事ができて本当に楽しかったです。一行の中で普段おしゃべりなグループも、広島平和記念資料館では、原子爆弾で命を奪われた子どもたちに関する展示—戦争の恐ろしさと世界平和を継続することの重要性を気づかせるものとして—を見学しているときは、無言でした。

Attending a soba-noodle making workshop where we were instructed by professional chefs was a real treat that few visitors got to experience. Experiencing a lesson in Zen meditation and the tea ceremony which gave our group another aspect of Japanese traditional culture, as a nice contrast to the popular culture such as anime and J-pop music.

(和訳)そば名人の指導によるそば打ちは、参加者のほとんどが経験していないだけに本当に素晴らしいものでした。座禅や茶道を学んだことは、アニメや J-pop とは対照的な日本の伝統的文化の一面を学生たちに教えてくれました。

It was also gratifying to observe our American students learn how to navigate the various aspects of everyday life in Japan, such as wearing school uniforms, learning how to order food, and expressing themselves in an unfamiliar language as well as observing social habits different than their own. We believe that this will help them in developing maturity and other life skills.

(和訳)アメリカの学生が日本で生活の様々な場面において、どのように対処するかを見ているのもまた嬉しいことでした。例えば学校の制服を着たり、食べ物を注文したり、不慣れな言語で自分自身を表現したり、自分たちとは異なる社会習慣を守ったりすることでした。これらのことは、分別をわかまえること、そして今後の人生の様々な状況においての一助になると確信しています。

The biggest takeaway I had from our trip was that despite our differences in cultural practices, ultimately – we all want the same things for our families and communities – such as educational advancement, quality of life, and a brighter future for our future generations.

(和訳)この研修で私が持ち帰る最大のものは、文化的な慣習においての私たちは違いがあるにもかかわらず、つまるところ皆家族や街のために同じ価値を必要としている一たとえば教育を向上させること、生活の質、そして次世代への明るい未来です。

The hospitality and warmth we received in Tsuchiura was unparalleled. This showed me that cultural encounters and international friendships are best experienced on a person-to-person basis. We look forward to future and continued encounters and with our new friends in Tsuchiura, and hope to visit again soon in the future!

(和訳)土浦で受けたおもてなしと思いやりの心は比類ないものでした。このことは文化の出会いそして国際的な友情というものが個々のつながりにおいて素晴らしい経験であったことを教えてくれました。土浦の友人たちと将来、継続してお会いできることを楽しみにしています。そしてまた訪れたいです！

土浦市保護者より パロアルトからの受入れを通じて感じたこと

齊藤 真希（土浦市都和中学校 齊藤 優翔 保護者）



私の息子がアメリカのパロアルト市にてホームステイをさせていただいたことがご縁で、今回初めて受入れを経験させていただきました。受入れをする不安もありましたが保護者説明会などで受入れの体験談のお話を聞き、受入れをすることが楽しみへと変わりました。準備を進める中、「バディが日本に来たら楽しい思い出をたくさん作ってもらおう」という気持ちで受入れまでの日々を過ごしました。

歓迎パーティーで息子は約3ヶ月ぶりにバディと再会し、私たち家族は初めて会うことができました。長旅の疲れもみられましたのでこれから始まるホームステイに備え自宅に戻ってからはゆっくり休んでももらいました。

いよいよホストデイ！バディの希望で東京ディズニーシーと東京ワンピースタワーにいきました。東京ディズニーシーでは他中学のホストファミリーのご家族と合流しみんなで行動を共にしました。東京ワンピースタワーはバディが1番楽しみにしていた場所だったのでたくさん写真撮影し、時間の許す限り遊びました。2日間のホストデイでは、バディと共に有意義な時間を過ごすことができました。何よりバディの笑顔をたくさんみることができたことが嬉しかったです。バディのご家族に日本での様子を毎日メールし連絡を取り合ったことで安心してもらうことができました。ホストデイがお互いを知るきっかけとなり私は積極的に日本語で話しかけました。言葉が通じなくてもジェスチャーなどで伝わることもありました。バディも何度も言葉を言い換えたりして頑張って答えようとしてくれました。平日息子が塾で夕方から不在の時は、他中学のホストファミリーのご家族と連絡を取り合い、うなぎや串揚げなどを一緒に食べに行きました。ホームステイが終わりに近づくにつれバディも日本にも私達家族にも慣れた頃に答礼パーティーの日を迎えてしまいました。お別れの時間はさみしい気持ちになってしまいましたが無事に帰国日を迎えられた安堵感もありました。

交換交流事業は私達家族にとって貴重な経験でした。お互いの家族が同じ気持ちで交換交流できたことは素晴らしいことだと思います。土浦市とパロアルト市の関係者の皆さまには心より感謝しております。本当にありがとうございました。

土浦市保護者より パロアルトからの受入れを通じて感じたこと

青山 優子 (新治学園義務教育学校 青山 朋未 保護者)

ホームステイは私が学生時代に憧れていたことでした。今回、それを娘に経験させることができ夢が叶った気持ちです。また、実際にゲストを我が家に受け入れることで私自身や家族もホームステイを経験できたのかなと考えています。

受け入れまでの日々は、ゲストに喜んでもらえるか、不自由な思いをさせたりしないかなど期待と不安で一杯でしたが、始まってみると毎日があっという間に過ぎていきました。一番悩んだのが、食事についてでした。日本の食文化を教えてあげたい気持ちもありましたが、本人の好き嫌いもあるだろうと事前に確認しておきました。生魚が苦手ということでお寿司は出しませんでした(笑)。意外に、朝ご飯はパン派ではなくご飯派で、特にお稲荷さんがお気に入り、朝から沢山食べていました。生活習慣や食文化の違いを感じることもありましたが、それも1つの経験と考えれば楽しかったと思います。

一番良かったと感じるのが、3人の子供たちにその異文化交流を体験させることができたことです。学校や英会話教室で学んでいる英語というものが、何のために学んでいるのか、将来それが自分にとってどのようなカタチで必要となってくるのかが、多少なりとも理解できたのではないかと感じています。また、ゲストに対してして地元の食文化、観光地を紹介することで、改めて自分たちが住んでいる茨城の魅力を再発見することができました。実際に、牛久の大仏見学や蕎麦打ち体験などは、私自身も初めてで、ゲストと一緒に楽しむことができました。期間中、我が家から制服を着て自転車で学校まで通学してもらいました。制服を着て照れながら出発していく姿は、とても可愛くて印象に残っています。学校でも、すぐにみんなと仲良くなり、とても楽しかったのか、帰ってきてから娘と学校の話で盛り上がっていました。

最後に、土浦市市民活動課の職員の皆様を初め今回の事業にご尽力頂いた方々に心より感謝申し上げます。また、長年続いているこの事業を今後もずっと継続し、土浦市が国際交流都市として発展していくことを願っております。



活動紹介写真

パロアルト市派遣（平成31年3月16日～26日）

★結団式～出発★



▲緊張の結団式



▲成田空港にて もうすぐ出発！

★歓迎パーティー★



▲パロアルトへようこそ！バディがお出迎え



▲温かく迎えてくれたホストファミリー



▲すっかり打ち解けて仲良しに

★学校訪問★



▲日本語クラスのみんなが歓迎してくれました



▲明るくて開放的な校舎



▲日本の学校生活を紹介しました



▲アメリカの学校とはだいぶ違うね



▲英語で伝えられるって楽しい!

★パロアルト市議会訪問★

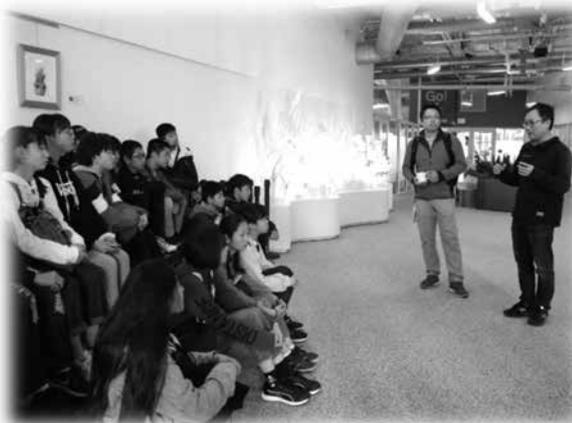


▲全員が名前を呼ばれ、紹介されました



▲議会の方々と記念撮影

★Google 社見学★



▲Google に勤務しているバディのお父さん達が案内してくださいました



▲どこにいても会議ができる設備や、無料のカフェやレストラン、遊び心あふれるスペースがたくさんあって、ただただ驚き！

★パロアルトの風景★



▲緑が多く美しい住宅街



▲お洒落なダウンタウンの街並み



▲テスラモーターズの本拠地



▲週末のファーマーズマーケット

★スタンフォード大学★



▲ランドマークのフーヴァータワーと見渡す限りの広大なキャンパス

★ヨセミテ国立公園見学★



▲息を呑む絶景



▲大迫力の滝



▲美しい自然に心が洗われます



▲お天気に恵まれ「ハーフドーム」を見ることができました！

★ファンナイト★



▲みんなで卓球やプールを楽しみました



▲ビンゴで賞品ゲット

★答礼パーティー★



▲司会やレクリエーションを準備し、感謝の気持ちを伝えました



▲ついにお別れの時が… 本当にありがとう！また会えるのを楽しみにしてるよ

★サンフランシスコ市内見学★



▲坂の街サンフランシスコの風景



▲観光客で賑わうフィッシャーマンズワーフ



▲ケーブルカーに乗って車窓からの景色を楽しみました



▲サンフランシスコのシンボル、ゴールデンゲートブリッジを前に

パロアルト市生徒受入れ（令和元年6月6日～16日）

★歓迎パーティー★



▲3か月ぶりの再会！



▲日米の生徒代表から挨拶



▲歓迎の乾杯！日本滞在を楽しんで！

★学校訪問★



▲お揃いの制服が嬉しい！



▲日本の授業を体験



▲英語ではネイティブの発音を披露



▲クラスメイトともすっかり仲良し



▲生徒会のみなさんが歓迎してくれました

★パロアルト一行日光見学★



▲世界遺産に感動！



★関西方面研修★



▲浴衣を着て日本食を楽しみました



▲京都 錦市場



▲広島で平和を祈願



▲姫路城前で記念撮影

★そば打ち体験★



- ◀ 名人に教えていただきながら蕎麦粉をこねていきます



- ▲細く切るのが難しい…



- ◀ 自分たちで打ったお蕎麦の味は格別！



- ▲名人の先生方、ありがとうございました

★座禅・茶道体験★



▲心を無にして座禅を組む
ひととき

▲お茶のいただき方も教わりました



▲お寺で日本らしい文化を味わう素晴らしい体験でした

★答礼パーティー★



▲日本語でお礼の言葉を述べてくれました



▲盛り上がったおはしゲーム



▲名残惜しいお別れ



▲また必ず会えることを祈って！

**令和元年度 土浦市中学生交換交流事業
(パロアルト市)実施報告書**

編 集／令和元年度 土浦市中学生交換交流事業派遣生・保護者及び引率者

発 行／土浦市国際交流協会

土浦市大和町9番1号 土浦市市民生活部市民活動課内

TEL 029-826-9051